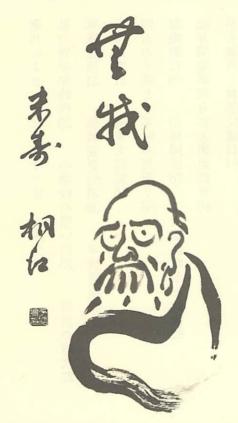
米寿までの歩み

本因婚子可



平沼彌太郎米寿の記念撮影 右,とみ



雅号「桐江」は水野梅暁老師が私の釣好きをみて厳子陵の詩から選んで下さったものです。

目

次

私の青少年時代20 発刊によせて(松田江畔)6 小学校の思い出25 序文16

軍隊生活31 郡域変更問題39

学校問題42

明治の時代27

山林関係76 大東亜戦争と銃後82

四人の子供と十年間の初詣り58

飯能銀行69

名栗水電51

関東大震災56

県会議員と参議院議員94

松井関東軍司令官と興亜観音88

大黒天と埼玉銀行18 埼玉銀行の生い立ち88 埼玉銀行101

辰年生れの新年初詣り23

圣営者頁取召留版な耶、事業家とし変台、伊勢神宮第五十九回御遷宮式28 武鉄事件33

経営者頭取平沼彌太郎、事業家とし政治、

宗教また芸術家としての人間平沼を語る140

昭和五十五年の新年を迎えて227

納経塔218

開

山三十五周年と地球愛護平和観

音 221

玉華門193

玉華門と高階瓏仙猊下200

続白雲山鳥居観音、

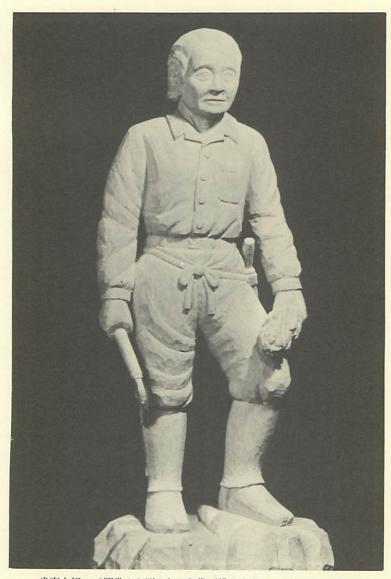
母と鳥居観音182

略 歴 231

註 237 救世大観音202

し ク 189

鳥居観音マ



米寿を祝って郷党より贈られた銅像(総高3.8 m, 台座共)本堂前

発刊によせて

松田江畔

から 桐江、 平沼弥太郎先生は、 名栗郷の仙人なのだが、 い つの 間にか塵寰に落ちてしまった。

だ

度は本当の仙境に入って、逍遥自在、 この 陶 渕 明の 仙 人は都会の中に在っ 句調 を借りると、 ても、 誤落塵網中、 _ 向に神通力を失なわないの 不滅の仙薬を手に入れたらし 去六十年、 であるが、 は 妙である。 い。 功成り名遂げた先生は、 私は桐江先生をこのよ 4



らに見ているのである。

揮をとっておられた。 くり坊主で、軍隊から復員した時と同じ姿であった。平沼 翌々年、 本家の座敷いっぱいに広げられた書画は、 ほどで、 私がはじめて平沼家を訪れたのは、 昭和二十二年の八月だと記憶してい その中で水野梅暁老師がでんと坐り、 大東亜戦争が終った 足の踏 る。 頭 虫干の指 み場もな は < h

という話は、 梅 暁先生の一挙一動一言一語が、 梅暁先生はどこからこんなよい書記を拾って来られましたか」と、平沼とみ夫人が聞いた 後年承ったが、 事実私は梅暁先生に傾倒し、書記でもなんでもよかった。 私にとっては旱天の慈雨であった。

態 平 ح 慈母 沼 の第一回の名栗訪問から引き続いて、私の東京での宿は江古田の平沼寓ときまって了った。 おいで下さった桐江先生ともお目に掛った。其の頃鳥居観音境内には、 本家に二三日滞留している間に、ご子息や親戚 観音しか出来ていなかっ た。 仁王尊一体が彫り掛けのまま土間 の方々とも親しくなり、 にあっ た。 奥の やが て東京 院 の観 から

室であり、指令室であって、人体に比すれば心臓部に当る。 先生の江古田のお住居は、 政治関係、 経済関係、 鳥居観音建設関係、 その他もろもろの

入りして行った。別に大して役には立たないが、 るのは当然である。その上どの面にも興味を持つ私の天邪鬼性から、 心臓部 に時々お邪魔して宿泊させてもらうので、先生の意図もその手腕 相談を受ければ無い知恵を絞ったのである。 だんだん先生の仕 力量もよくわ 事

先ず無いと言ってよい。 検討を加える。 性質である。 先生 は 雅俗の如何を問 決定すれば万難を排して一挙にこれを推進するので、成功しないということは か な りの わず、 ワ 1 7 一つ事に熱中する方である。 1 で あるが、 実行に移す前に とことんまでやらぬと気が済まな いくつかの案を立て、 実に 慎 重 K

であろう。人生は長くても百年である。其の生涯において、自己の理想の半分も達成出来な のが常である。好きな事一つが出来ず、悶々の裡に幕は降りるのである。 めるらしく、 議会議員としても、 緇に在りて黒くならないのである。 銀行の頭取としても、 無慾恬憺としているので、 超然としたところを失わない。 全体の形勢がよくつか 仙 人た る所以

ている。仏天と祖霊の御加護に因るものとは云え、その精進努力は瞠目すべきものがある。 篇を賦して敬意を表する次第である。 先生は自らを修め、更に利他行を行じて、菩薩の道を踏み、不滅の清香を放つ事業を残され このたび其一代記編纂に当り、緒言を徴せられたが、其器で無いのを恥入る。依て玆に賀詩

奉賀平沼桐江先生

銅像落成

銅像落成を賀し奉る平沼桐江先生の

江 畔

生在山林裡。

籌策才抜群。

経営最嶄新。

出為都塵人。

生れて山林の裡に在り。

松 田

出でて都塵の人と為る。

経営最も嶄新なり。

籌策の才群を抜き。

事に当って旧套を去り。

多く不遇の民を済う。

北堂奉遺言。

帰依深仏因。

参与国政日。

不顧其一身。

国政に参与するの日。

其一身を顧みず。

当事去旧套。

多済不遇民。

観音与菩薩。

自刻重酸辛。

北堂の遺言を奉じ。

帰依仏因深し。

観音と菩薩と。

自ら刻して酸辛を重ぬ。

巍然銅像就。	郷党慕厥徳。	時画面壁僧。	帰来林下住。	矍鑠迎米寿。	篤行感鬼神。	航空尋聖跡。	造像探今古。
五雲繞如春。	鳩資写其真。	仙貌髪如銀。	写経日相親。	常思転法輪。	九死回芳辰。	天竺亦為隣。	建塔去腐陳。
巍然として銅像就る。	郷党厥の徳を慕い。	時に面壁の僧を画く。	帰来林下に住し。	矍鑠米寿を迎え。	篤行鬼神を感ぜしめ。	航空聖跡を尋ね。	造像今古を探り。
五雲繞って春の如し。	資を鳩めて其真を写す。	仙貌髪銀の如し。	写経日々に相親しむ。	常に法輪を転ぜんことを思る	九死芳辰を回す。	天竺もまた隣と為す。	建塔腐陳を去る。

水野梅晓禅師,広島県出身の僧で,根津山洲翁に随って中国に渡り,長沙に寺を建て,中華の革命をかげで援助するなど,宗教,文化,政治,軍事等,日中間の問題解決に終生の努力を重ね,その交遊は,日中最高の人物のほとんどに及び東亜の平和に尽した力は偉大である。 晩年は玄奘三蔵法師の霊骨塔建立に捧げ(慈恩寺,鳥居観音)74才を以て,昭和24年に遷化された。





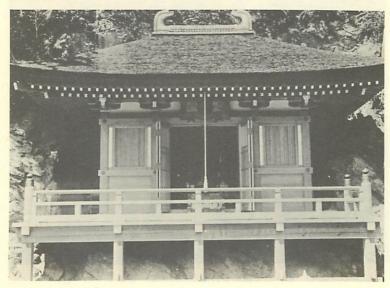
鳥居文庫。 大東亜戦争による空襲も 激烈になり、梅暁老師の 貴重な文献等が危険になったので、平沼よりこれ が疎開をお勧めして、ト ラック1台に積み、麴町

基理して、その重要なものを骨格として水野文庫を建て、桐江蒐集の美術品其他も合せて、現在の鳥居文庫となった。



平沼弥太郎の父源一郎と母志げの像。 (木彫)昭和35年作,高さ40cm

恩重堂。母に観音堂建立を託され乍ら、10数年を経戦争が拡大しつつある昭和13年、母の遺言を実現しようと決心し自から、白雲山山腹の岩壁を掘り拡げて、間口2.7m、奥行2.4mの御堂を建て、曹洞宗管長鈴木天山猊下の御導師により落慶開眼式を挙行した。



現在は発願主の父母の像(上記)を安置して恩重堂と称する。堂名は父母恩重 経に由来する。



母のためにと始めて彫った聖観世音菩薩(部分)木彫,総高2.3 m 昭和15年完成



仁王尊 (阿像) 木彫 総高 2.5m 昭和15年製作に着手,戦争中戦後と,12年の歳 月を要して昭和27年に完成した。



仁王尊 (吽像) 木彫 総高 2.5m

の当用日記をひもときました処、 私は明治二十五年六月十二日生れですが、この波瀾多き人生を纒めてみたく、 次の記事が目につきました。 明治四十五年

『予は早や満二十才の声がかかり感慨多き年になれり、嗚呼二十、胸には一種の強き響あ

熱烈燃ゆるが如き血潮漲ぎる。

二十才は人生行路の第一歩にして成功の可否実に今日に芽生えるなり。 二十才になり成年を迎うる事を喜ぶと共に一面甚しき苦痛を感ぜざるを得ず。

人生は夢の如く須臾にして白髪の老人になることを考うる時

たとえ一刻といえども無意義に過す事を許されず』

いてありましたが、私は彫刻が好きで母の遺 無理を重ね八十三才の時軽い脳溢血になり、 言により、 鳥居観音を完成すべく多く夜ナベ 一年七ヵ月病院生活を送り後遺症

K

ノミを取り、

である三十三観音、鐘楼等を完成し、四十余年の間に両親の遺言たる鳥居観音の諸堂塔を建立 し、信仰に打込み得て現在体の調子もよく、 無く、 その後医師の注意により公職や彫刻等全部とりやめて、悠々自適の生活に入り、 殊に結婚生活六十五年になり妻も八十四才で夫婦 理想

揃

っている事は、私の最も幸とする処です。

らに 十年間にわたり子供達が皆あつまり、よろこんで内祝いを挙行してくれています。 近年 こうして米寿を迎うる事を得たるは感激おくあたわざるものがあります。 なりまし は椿山荘のホタルを見乍ら行いますので、 た。 始め私の四人の子供からだんだんふえて、只今は四十五人、 『ホタルのオデイチャン』と曽孫達が言うよ 私の誕生日には数 私夫妻を併せて

匹

十七人の繁栄となり私の最大の喜びであります。

うと慙愧に堪えない。同時に如何に人生が複雑にして思う様にならざる事かと痛感する次第で 強い信念を持っていた為に、自分の人生行路を振返ってみて、いかに遮二無二であったか 又この当用日記には 『自ら反うして直くんば、 十万人と云えども我れ征かん』と云う如き と思

あります。

然し人にめぐりあい、これはと云う人に接する機会に恵まれた時に、事は皆成就している。

自分一人で何もかもやれるものではない。

古された言葉の重みがわかり、こう云うのを安心立命とも云うのであろうかなどと、ひそかに 因縁の糸をつないでくれた目に見えないものが理解されてきて、そこから感謝と云う、 言い

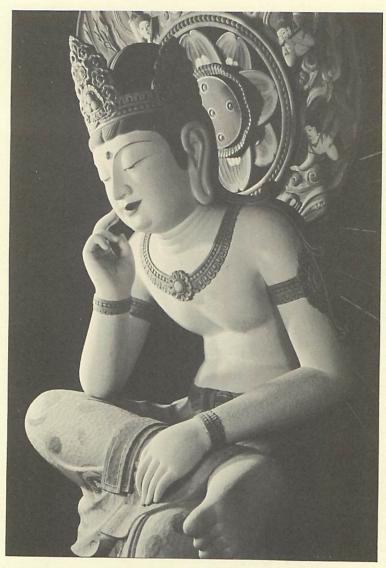
思っている今日此頃であります。

日 本 は今後も立派な誠 の人が出て、世界に比類なき伝統を守立てて行く事と思います。

平沼家として、 殊に本書に対し石 この米寿を祝し得る事 田宗国氏を始め、 其の他の親しき方々の御援助により上梓する事を得ま は有縁無縁の皆様方の限りなき御法愛の たまもので

した。此処に銘記して御礼を申上げます。

— 18 **—**



如意輪観音(木彫)総高2.8m 昭和30年作(七観音の内)御像の尊厳を傷つけない程度に現代感覚を生かそうと,当時流行の水玉模様を彩色。

私の青少年時代

私は平沼家十一代目で長生きの方です。中学卒業後、 農大を希望し、 家をとび出したのです

が、

父が病身で本業の山林経営をするようにとの厳命で、

巳むなくこれに専念致しました。

業を建て直すのに役立っていると思います。 私は 世間知らずで色々の仕事に失敗しましたが、然しこの為、銀行・水電等の破産状態の事

か ら学校に通いました。伯母は当時女性留学生の最初の人でした。 中学時代は江戸川の伯母、私の母信行院の姉、武田錦子女史(お茶の水女学校の先生) の家

女学生を五人位い、家に預って居られた其の中に私はいたので自然女性的になり勝ちで、其

の為軍隊ではよくビンタを喰いました。

以下思い出を書いてみます。



小学校時代の平沼弥太郎



白雲山,鳥居観音の 山麓にある生家



明治42年,平沼家の或る日の記念撮影

嬢 父 弥 母 不 上 郎 上



女性に囲 まれて, 武田氏邸 に於ける 記念撮影

僕をつれて、弥太児、弥太児と云って可愛がりよく散歩された。 私のおぢいさん(源一郎)は私が十才の頃死亡された(六十四才没) よく布袋竹の杖をつき

多分五、六才位の時のように思う。

ところ、竿の先を摑まれて、ぐるぐるひきまわされた。 にとび出 家ではおぢいさんが囲炉裏の横座にすわっていて、何かのことで叱られて、くやしくなり庭 し長い物干竿を持って、庭からおぢいさんの頭をヒッパタこうと思って竿を突出した

出がある。 それでも、 きかん気でおぢいさんを竿でタタコウとして、泣き乍ら庭をひきずり廻された思

い

おぢいさんが高水山神社へ参拝に行った事がある。これも私が五、六才頃と思う。

書 っこく者のおぢいさんは相当金額奉納するつもりでいたのを帰ると言い出してきかな いてあるのに、おぢいさんが無視して駕籠を乗入れたところ、寺男に文句を言われたので、い 男衆四人で籠駕をかつぎ、女衆三人と私の九名で高水山詣でに出かけ、門前に至り『下乗』と かった。

て眠り乍ら歩いた。男衆は其の為に足を腫らして三、四日寝ていたと云う。 ので、二里の道を又小沢峠を越して朝三時頃漸く家に辿り着き、私は女衆の両手にぶらさが **ぢいさんは中風の上に七十キロ位の体重なので、全然歩けないのにすぐ帰ると云い出した**

小学校の思い出

本の人

て私だけ二時間も立たされた。 山 私の家は大した財産でもないのに、村では鳥居大尽と言われていた。 或る家に柿 間 の小さな小学校なので僻み根性から他の生徒からいじめられて萎縮して小さくなってい が沢山 なってい 他の生徒は要領よく逃れて、くそ真面目な世間知らずの私だけ たのを四、五人でとったので先生に言い付けられ、 呼び出され

ぐので、 或る時私が便所に入ったら、ソレ!とばかりに大勢の生徒が便所をとりまき、 おちおち用もたせず、出るに出られず困った事があり、以後学校では便所に行 わい わ かない さわ

事にした。

が罰を受けた。

名栗の小学校の教育程度の学力で東京に出て京華中学に入ったので勉強には苦しんだ。

の援助を頼み込まれた。

大正十二年の関東大震災で京華中学も丸焼けになり、

磯江校長先生が私の家に来られ、

復旧

材木は引張凧だったのだが、校長のお顔をたてて材木を出し、お茶の水に仮校舎がいち早く

出来て大変感謝された。

明治の時代

お父さんにはよく旅行につれて行ってもらった(六十九才没) 明治の頃乗物が不便で沼津

迄汽車で行き、修善寺温泉によく行った。

その後、 熱海行きの人車が出来て、小田原からオモチャのような人車や、軽便鉄道に乗って、

熱海の宿によくつれて行ってもらった。

佐野義助という下男と二人で、油絵の道具を担いで旅行した。

当時、 ウバ コ (湖尻) 温泉は湯が道端に溢れていて、 旅館は一軒もなく野天風呂だった。

強羅温泉には茅葺きの宿屋が二軒あった。 大湧谷の噴煙はものすごかった。

日 あるは母の信仰のおかげである。 母 は当時体が弱く、多く大磯に転地療養しておられたのでよく見舞に行った。 鳥居観音の今

徴兵検. て滝 にか 査で一年志願兵に決定したので、 か り、 冷水摩擦をして体が熱くなる迄鍛えた。 体を造るべく裏の川 に滝をつくり、 冬はツララを毀



明治44年8月, 霊峰富嶽にて, (傍に立てる は強力)

折

か

ら役の行者

0

開

山

である大

峯

屋を通り吉野山に辿り着い いで旅立ち、 八月十三日東海道を信玄袋をか 務めて徒歩で名古 た。

なり、 な念珠を首にかけ金剛杖をつ Щ に参拝者多く、 満 州 赤尾 束に鉢巻きを 0 団 体 私も行きたく K 加 えて か 大き 世

5

られてひとかどの行者風となり、 先達は弁慶のような装束をつけて其の音頭に合わせて六根清

六里の道を登る。

役 の行者 これは下界の汚れは浄土に踏み入れない為、 の食せしと云う石南花の密生林にたどり着く。そこに 此処で各自ワラジを脱がされ、 ワ ラ ジ が Ш 程脱ぎ捨てて これより修業

の道となる。

先ず三丈余の屛風のような崖に鎖があり、これに摑まって昇る。

こそ見れ』次にお亀石 上に 地蔵堂あり先達に続いて歌う。 の難所を通り、名高 其の歌は い 西の覗きに至れば、 『金懸と問うて尋ねて来て見れば国分の地 高さ何十丈とも知れない崖 蔵下

上より、 腰に紐 を着け、 上半身のり出して吊され、 青くなった。

の道を越えて、ようやくにして本堂にのぼる。 其 0 時 の呪文は 『有難 や西 の覗きに懺悔して弥陀の浄土に入るぞ嬉しき』其の他数々の修業

時に八月十九日。足を鍛え暑さに打ち勝つ体力を作らんものと、吉野山、高野山、 畝傍山

と旅行三週間にて帰宅した。

大晦 日の夜は子の権現、天王山、高水山に初詣 の護魔を焚いて頂く為、 裸まいりをして、朝

がた、い眠りしながら帰宅した。これも二十年間続けた。

激務で無理が多かったが、今日の長寿を得たものと思う。 山林経営専門の家系なので、よく山を歩いたり、積極的な健康法や、軍隊で鍛えたおかげで

軍隊生活

徴兵検査はその頃、名栗村は秩父郡だったので、 秩父迄行った。そして甲種合格だったので

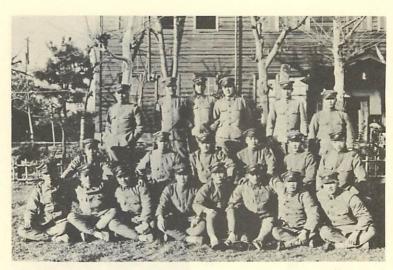
直ちに一年志願兵に決定された。

聯隊では志願兵が六十五名、 そし て宇都宮の六六聯隊第二中隊に編入された。 五九聯隊にも六十何名かいた 一箇班に三名ずつ志願兵が配属され、 (計百二十名位)

だが 年が過ぎると除隊だが、 百二十名の志願兵の中で少尉になれたのは六名で、私は六番目であった。 曹長以上はその後一年に三ヵ月ずつ、三年間特別教育を受けた。

それ から二年経って思いがけず、私一人が現役将校と同じ資格で、麻布の歩一に入営教育さ

れて中尉になった。



大正元年,宇都宮66聯隊入営, 後列右から3人目が平沼弥太郎

在郷軍人分会長

(十六年間

(大正八年

五.

月

か

5

昭

和

+

年

四

月

事

をし

た

0

で

認

8

5

れ

た

0

で

は

ts

い

カン

と思

n

は在郷軍

人分会長として、

銃後

の仕

あ N た迄は良 0 寝 村 僕に 台 た。 で立派な送別会をしてもらって入営 0 藁 は か 何 2 蒲 たが、 団 も判らず 0 良 い 軍 地獄の 物 隊生活は は 古 兵 ような生活 から お 独占 ぼ 2 5

痛 志 0 差は甚だしく、 くて寝 願 兵は中 られ 身 たも から ゴ ので 殊に P ゴ は 志願兵は寒くても暖 D なく、 古 まっ て 古兵と新 い T 体 兵 办



猛烈な訓練, 当時の平沼弥太郎

び、

上等兵の指揮でお互にビンタをさせら

れたが、

お互様と思って軽くすると、

古兵

その新兵の中で誰れか一人ずるける者がいると、 その者は勿論、 全員総ビンタを食わせられ

た。

新兵は毎日の様に廊下に二列横隊に

並

炉のそばなど寄ることは出来なかった。

5 いには本気で叩くようになる。 — 33 —

や上等兵が何度でもやり直しさせるので、

志願兵は半年位たつと伍長か上等兵になってしまうので、 えらいビンタを受けた事がある。 毎日のようにビンタを受けたもの

私はスリッパを盗まれたので、その辺にあったスリッパをはいたら運悪く上等兵のであっ

た

だ。 直 立 殊に私は班長によく殴られ、寝台の下によく叩き込まれる事があったが、その時出て来て 不動の姿勢で『これで御許し頂けますか』と云うと『ヨシ』と言われたこともあり又叩か

然しそのお蔭で軍隊生活で忍耐と云うことを覚えた。

れることもあった。

入営後 一ヵ月頃かと思う。鹿沼迄銃を持って行軍したことがある。

装備をして演習をしながら行軍する。 のだが、しまい 僅 か七キロ位なのに足に豆が出来、銃で肩が痛くて苦しんだが、古兵は五貫目以上もある重 には猛烈な訓練のおかげで、宇都宮から大田原迄重装備で十数里(約六十キロ) 私などにはとても真似のできないものと思って驚いたも

歩ける様になった。驚くべきことである。

旅団 「の対抗演習の時だと思う。敵陣にぶつかって散開したまま寝そべっていた。 その時腹が

蘷 减 の中 った ので飯 に 食い残した配給のコ 盒 の中のスエタ飯を水で洗って食べた事もあったが、 チ コ チの餅を寝ながら嚙ったうまさは、 腹痛も起さなかった。 今でも忘れられない。 又背

り込んで野宿した。 ので穴を掘って炭をおこし、 又、敵陣にぶつかり対抗して露営した事があって、寒い時だったが火を燃やすことができない その時靴を火で炙ったので皮が固くなり歩いたらマ 廻りに藁をしき、 天幕 は張ることが出 来な い メが出来て苦し ので、 その藁に ん

長 陣中深くはいった処、敵の砲兵が大砲を引いて退却するのが良く判ったので、 に報告した処、大隊長に話せと云われたので報告したら誉められた事があった。 あ まり寒いので中隊長に頼んで将校斥候に出してもらった事がある。 敵の前 早速帰って中 哨線を潜 って敵 隊

り込み動く事が出来ない。 た処、 或 る戦で退却する時、将校斥候に出されたが、 皆夕食のホシイの飯の仕度をしていたが、 日の暮れるのを待ち、 目じるしの白帯をとり敵の間 道に迷い敵の後ろに廻ってしまい、 『平沼斥候只今帰りました』 を潜り本 と云ったら怒 農 隊 家 に帰 に入

られもせず『御苦労』と中隊長に言われホッとした。

日曜日に始めは引率外出で、後には一人で自由に出られた。

楽しみは食べる事でオ ムレ ツを六人前ペロリと食べた事があった。 友人と八百熊と云ら料理

屋でよく遊んだものだ。

人力車の後押しをして、 又見習士官の時、 母が面会に来て下さったので、中隊長の許可を得て日光見物に行き、 いろは坂を登った処、 見習士官の服を着た私が後押しなので母が涙を 母 0

流して喜ばれた事があった。

陰嚢の皮が剝け、 軍 一隊では、 共同風呂なのでインキンがうつるのである。その薬を塗ると飛び上るほど痛く、 良くなるが又風呂でうつされて何時迄たっても直らず、これが軍隊生活の最

も苦しい事であった。

又夜中に非常呼集される事がある。

元気が無いと言われて、 その時軍装を庭に持出して着装し、兵営のまわりを一週させられる事もあり、 木銃を持ったまま兵営のむこうの便所迄かけ足させられたのも苦しい 又銃剣術の時

思い出である。



平沼弥太郎 22才



結婚後2年(大正5年) 平沼弥太郎夫妻

鬼とみ 18才

郡域変更問題

は山伏峠を越して秩父に一泊せざるを得なかった。 て外秩父と言われ、総べての用事は飯能であり乍ら、徴兵検査や在郷軍人分会、 入間郡附近は昔は高麗郡であったが、入間郡等に変更されて名栗、吾野の両村は取り残され その他の会合

利 会中 大野 り、 郡 になり、 会議員選挙もむずかしく、又ママ子扱いされていたので、 はまるで壮士の様に議院運動をして居たが、 貴衆両院に根強く運動を継続したら、 嘉太郎、 馬鹿な努力をしたものだと思っている。 名栗は私と槇田又次郎、 浅見清八氏等が、 衆議院は議案が通って貴族院は通過せず、 今から考えると、 郡域変更の運動を起し、 吾野で本橋九三、 入間でも秩父でも交通が便 大正 大野 私達 八年 謙 る議 頃よ

当時は取り残された感覚を味ったもので、止むを得なかったのである。

長谷川議員他数名の議員、総員二百名出席。午後五時数名にて二次会を開き九時半帰飯す。 大正十年四月十七日(日)、郡域変更完成祝賀会、川越会館にて披露会、 粕谷衆議院議長、

り。 大正十一年九月一日(金)子の山行き、粕谷議長他、県郡長、 郡域変更記念碑、 除幕式盛況なり。郡長、 地方課長他四名私の家に来宿す。 入間村長等九十余名の来場あ

とあり、この記念碑は子の権現に建立されている。



大正15年秋 陸軍歩兵中尉礼装

学 校 問 題

学校問題は、 名栗村始まって以来の未曽有の事件で、 大正七年より昭和二年秋迄、 十カ年に

亘って世間を騒がした大問題であった。

明治十七年頃(名栗打毀)と云う秩父暴徒に次ぐ大問題が起った事がある。

食糧 戸毎に飯能目がけて押し出した。 一の不作から畑の少ない山村名栗村は餓に堪えかねて『マサ 飯能の穀屋、 中清その他の穀屋の柱にはいまだに カリを持って出ろ』 と云う声 7 ++-カ

リの跡がある。

保存しておけば良かったと思う。 飯 能 銀 行 の坂戸支店にも マサ カリのむごたらしい跡が残っていた。 これ等は改築の時記念に

の後の始末についてはどう解決したか不明である。 処が川越鎮台の兵隊が鎮撫に来ると云う声に、 打毀し隊はチリヂリバラバラに退散した。

そ

この様に住民は純朴な熱血漢が多いのである。

て拡張 の急なるを告げた。 大正 の余地なく、 七年の頃、 時の村長、 校舎も狭く寺小屋校舎であったので、時の入間郡長、 塩野氏の時代であった。 新館の学校は敷地が山と道路にはさまれ 出井氏が学校の拡張

席者、 (オーチバンバ)に移転することに議決した。 当時 槇 の日記をみると、大正七年七月二十三日(火) 田、石田 岡岡 部 仲 岡部 (金)、 高野諸氏計七名、 旧学校敷地及び予定地の調査をする。 とあり、 区会で小殿の 出

ところが旧学校の部落の人達が、子供の通学が遠くなると云う事からこれに反対し、 ここに

が、 護派十二区の槇田森太郎兄弟が十数名の青年に負傷させられた為、 問 二区、十三区、十四区、十五区の名郷方面は区民が両派に別れて居り、八月十五日新敷地 繰返された。 題を発し、七区、八区、(中)と九区、十区、十一区(上) 区議通り新敷地は七月十二日地鎮祭を実施するや、 七月十五日入間郡長来村し、之を中止せしめたが、郡長 上組も百余名にて地ならしを開始 が、 の裁断なかなか決されず。 問題は表面化し激烈な衝突 交互に陳情 を重 ね たりした 叉十 した 0

令が出 連絡する有様だった、 新 敷地の人が上へ連絡しようと出かけると、 双方に郡長より左の提案が 已むなく新敷 地派も地ならしを始めたので、 あっ た。 途中で追返されたり、 郡役所よりこれまた中止命 手紙等も靴の底に入れて

新敷地は法規上、且つ面積広きにより新敷地を是とする。

旧 敷地 には青年会館を建てる事 にせよ。 との裁断に旧敷地派は怒り、 場をケッて退場 問

題は漸次複雑深刻になって来た。

ではないかと、自動車二台に分乗して追跡、 な一幕もあった。 日に村長と柏木氏が川越方面に出かけたという通報があったので、区会を再び流会にする作戦 翌年二月二十九日、学校新築予算の区会も、議員は出席を防害され遂に流会となり、三月五 川越に宿泊せる村長を警護したと云うような滑稽

来ず大混乱となりたるも、 をふくんで議場に乱入、移転派も議員擁護の為入場、飯能よりの警官十数名もどうする事も出 過し、あと区有林伐採に対する議案に移らんとせし折柄、九区、十区、十一区の百余名が酒気 三月七日、再び区会を開催、上組の議員欠席なので七区、八区の議員六名のみにて原案を通 員は混乱をくぐり抜けてようやく逃げ出す事が出来 建築予算五万余円を可決し、混乱中にヤッと議員の署名も終り、 た。

らしを始め、 依 って県の浜名技師 夜は娘子軍のおむすびの炊出し、 の設計にて、三月十六日、建築の認可を得、 木遣音頭は旧校舎と木霊し合い壮観であった。 七区、 八区民総出 にて地な

焼き旧校舎は その内、 旧校舎派の学校新築も完成したので、旧校舎派は教材を新築の校舎に運び、 クギヅケにしたので、 森田校長は野外教授をせざるを得なくなった。

六月二十日、数度の交渉の結果、教材の半数を(オーチバンバの) 部の生徒の教育をする事が出来る様になった。 新校舎に引取る事が出来

びたるも全く効果はなかった。 その間、飯能支会の町村長十数名が再三仲裁に来たり、尚県議及び教育会の校長連も足を運

可 運動が起り、 ありたるも名郷方面の生徒は妨害せられて登校する事が出来ず、この頃より村区民税の滞 八月末日(オーチバンバの)校舎新築落成し、郡長の進言により落成届を提出、九月中旬認 その為村財政維持困難となり、已むなく滞納処分を断行する迄に追込まれたので 納

ある。

件もあったし、生徒も自由に登校出来ず、 一月十六日、正論を押したる入間郡長日下伊三郎氏は解職せしめられたる等、 報道陣の攪乱もあって最も悲惨なる時期であっ 気の毒 な事

四、 校舎建築費の予算を作る為、区有林の調査をなしたるも妨害ありてなか 五万俵ある事が明らかになり、安心して区予算通りの建築に取りかかる事を得た。 なか 進まず、

で気の毒にて、又その運動の努力も大変だったとつくづく同情せざるを得なかっ 七区、八区の学校では正式に運動会や天長節をなし得たるも、 上組 は寺小屋のみじめ た。 な有様

したのは、 谷先生及び斉藤知事他三十余名の立会と云うモ 先生より高等科を上 昭 和二年二月七日、大正天皇の御大喪につき村民一同学校にて遥拝 十五日午前四時のことであった。 組 心に譲 る様の 勧 3 あり、 よって代表六名を選出 ノモ ノしき調停にて、 L 遂に双方共仮調印を終了 す。 県議事堂に於 四月八日、 粕 て、粕

仮調印 覚書の内容左の如し。

○上名栗第一尋常高等小学校を、上名栗尋常小学校とし、

新上名栗高等小学校は、 旧校舎跡に作りたる校舎をその儘同校舎にあてる。

(児童の件 省略)

○旧上名栗第一尋常高等小学校跡に建築せる建物の建築費中、 金一万円は上名栗区にて支出

す。残余は九区、 十区、 十一区民に於いて上名栗区に寄附する事。

(調査委員の件 省略)

昭和二年四月十五日

(関係者) 平沼弥太郎 柏木代八 浅見竹八 岡部長太郎 柏木真八 佐野仲次郎 岡部金五郎 鈴木高三郎 松下民吉 浅見星 岡部富蔵 田地慶治 吉田昭十 郎

(調停者) 粕谷義三 斉藤祐美 出井兵吉 飯野喜四郎外六名(各署名捺印)

十六日、区民大会を開きたるも、殺気たち、 轟々として纒る処を知らず。

私は矢表に立ちしも衷心より説得し無理に承諾せしめ、 十九日、 区会を通過させ漸く大問

も解決す。

内五万四千五百九拾六円六拾銭二厘は上名栗区負担金総経費七万四千七百七拾九円九十壱銭五厘也

その他は、 (一万五千四百七拾参円参拾壱銭参厘) 原田東太郎 (二千壱百拾円) の寄附 吉田昭一郎 (二千六百円) 平沼弥太郎

題

十ヵ年に及ぶ、名栗村の歴史上最大の問題であった学校問題は目出度く解決、 以前に も増し

て円満なる名栗村となりたり。

力に益々気勢あがりたるは驚の外なく、 二の考えを持ち、この様な大事件となりたる事は、全く慙愧の至りである。 熱血漢多く確固たる自覚と、自ら恃む気迫に、十数度の調停者の努力も効果なく、強い団結 私も吾一人直くば千万人と雖も吾行かんなどと遮二無

名 栗 水 電

n 資本金二十五万円で、 私が社長にされ、 て、 名栗や原市場、 ts か なか進まず、 その 大正十一年から昭和十五年迄つとめ整理にあたった。 加藤幹一氏が初代社長となったが、皆素人の悲しさその工事はごまかさ 他 負債が二十万円近くになり、飯能銀行から支払停止をくって、已むな 数カ村に電灯が無かったので、 有志相はかり設立する事になり、 始め

た。 そして原市場、成木、 小曽木に配電したが、 飯能迄の送電線で 地 主が 強く、 交渉に苦労し

払込) 金を借り、この借金を返した。 借 金も日歩五銭の高い利子で、五万円ずつ八年間に払込みをし、 が只の四、五円なので誰も払込みをする者がなく、私の個人財産を担保にして勧銀から 勿論株価は一株 二十五円

その為、 この負債は私個人が背負込み、 勧銀の借金支払いには非常に苦しんだ。

昭 和 十三、四年頃、戦時体制の電力統制により東電に買収され、私も株主も損失なく整理解

散する事が出来たのは幸運であった。

かっ 十名ばかりつれて、下田、修善寺、等慰安旅行をしたが、当時の貨幣価値でお金は使い切れな ったが、長い間の不良会社の苦労を洗い落して非常に楽しい思い出である。 そ 0 解散した時に整理残金が五万円位あったので、一番苦労した塩野武三氏を始め、役職員

何 i ろ十数年の間のことだから色々事件や苦労が多かったが、その中で思い出のひとつを書

てみる。

会社では規定通りの弔慰金を出した処、 昭 和 三年、電工が或る人に 頼まれて、 未亡人が不平を言って浅草の暴力団を頼んだので、暴 公休日なのに電柱 K 登り、誤って落ちて死亡したので、

力団 はよいカモと『八代氏末亡人救済』と称し水電をゆすりに来た。

だ が私は断固として跳ねつけたので、 暴力団は持久戦に入り、 加治屋橋旅館に宿泊して毎日

根気よく私の家にいやがらせをした。

日、 石を投げ込んだり、居すわったりしたり然し私が頑としてきかないので、根負けして正月二 仕 山事始め の屠蘇 の祝膳 の最中に、 ハンカチに包んだものを持って来たのであけてみたら、

血の着いた指が一本入っていた。

親分に責められて子分が指をツメて持って来た事が判った。

で、已むなく指をツメて持って来たので、 の話しを土産に子分は帰って行った。 n は 加治 屋橋旅館 に一年も滞在していて解決出来ないとは意気地 私は一月中旬頃ならあってやると約束したので、そ なしと親分に叱られ たの

か 分が出て参り、 な 処が約束の日 か 話しにならなか こちらは加治屋橋の滞在費を出すと云ったが、先方はその何倍もの要求で、 に暴力団が十四、五名押し込んで来て、 った。 今迄いた壮士を子供扱いする様な大親 な

私は有馬の水路を見せにつれて行った。

その時先頭に立って案内した処が、そろそろ夕方になったので、暴力団は山中の闇であり、

下は有馬の急流で、恐れをなして『帰ろう、帰ろう』と云い出した。

その時、 私のうちの男衆二、三十名が集まって、水電の庭にどんどん焚火をして待機してい

た。

私は闇の中で『この中には私のために命はいらないと云う者が五人や七人はいる』と発言。

彼等は震え上り、加治屋橋の宿泊料だけを受取って、ほうぼうの体で逃げ帰っていった。

如何なる事も命がけでやれば出来るものだという事を体験した。

関東大震災

洗の水が揺りこぼれてしまい下へ降り様としても、階段が揺れて動く事が出来なかった。 旅館の二階選挙事務所 大正十二年、吉田昭十郎氏の県会議員の選挙運動を実施中で、 にいい て、 お 酒を飲んでいた時、 突然グラグラッと地震がやって来て、 運動関係者は飯能駅前の港屋 盃

をしたとのこと、私は家が心配なので早速揺れる中を名栗に帰ったところ、 吉田候補は吾野方面に運動中だったが、道に大石が落ちていて事務所に帰るのにえらい苦労 幸い父も庭に家族

と従業員にとり囲まれて無事だった。

夜、 東の空が赤いので琴平神社に登って見たところ、 東京方面に火柱が空高く舞上り、 火の

海の様に見えた。

先がバラバラで遠く散らばっていたので、さがすのに苦労した。 翌日、 米、味噌等の食糧品を買い集め、 自動車で東京に行き親戚の救助にあたったが、 避難

の柳川家を捜した時大変喜んで、ブドウ酒をコップについでくれたと思ったら醤油だった。 武田章一さんは鎌倉に行かれたと判り浅見仙之助が人力車で、米、味噌等持って行き、 麹町

夜もグラグラ来るので巻脚絆、 地下足袋のままで玄関で寝ていた。

て日比谷公園の中に仮小屋を急造している様子、又道を通ると焼死した人がゴロ 丸ビル のが実に悲惨だった。 の中には何百名も死んでいると云う噂で焼け出された人がトタン板をガラガラ引っぱ ゴ ロし てい

小 石 川小日向台町の姉、 本郷の鬼俊民兄の所等、 親戚を捜して食糧を持って行ってあげて大

喜びされた。

る



一十年間の四人の子供と

邦 彦 三才 まりえ 二才

大正11年11月,七五三のお祝い

母,信行院志げ,第13忌法要を営んだ時,近親者集る(昭和3年10月26日)



前列,左5人目,父源一郎,後列左3人目平沼弥太郎,前列左より長男邦彦,右より次男康彦,妻とみ,右より5人目長女さつき,8人目次女まりえ

の機会が少ないので、正月には家族連れ立っ 私 は子供が四人ですが、多忙の為家族団欒

私は三十七才、妻とみ三十三才、長男邦彦

神仏詣りを十年間続けました。 十三才、長女さつき十一才、次男康彦九才、 次女まりえ八才(皆数え年)

て、

せられた事以外は思い出せ おぼえてい 何しろ四十数年前のことですし、子供達が 物の事、 るのは苦しかった事、 疲れてね む い ない様です。 のに 日記をつけさ 叱られ た事

あり、 です。小沢峠の入口の橋の所に、小さな祠が ので皆、くぐりました。 小沢峠を越えて高水山に往復三里余の山道 この橋をくぐるとハシカが軽いと云う

第 (昭和三年正月三日)

日 帰 b 高水山

正月二日は、仕事始めなので三日に出発し

すが、子供等は板の間 らえて神妙に頭を下げてい 育つ様、 高水神社の神前では子供達が、 又家内安全等、 にぬ 欲ばっ る無 かずき、 た祈願 心 すこやかに 0 寒さをこ 姿にこ をしま

ました。

そ、

却って神の守りがある様に思いました。

供 をぶらさげて歩く位、 私

かい

2

たのです。

は坂道を登る時や、 帰路ねむくなった子 元気で、子供も小さ

山

午後四時村山貯水池の食堂で昼食をした

から 中で平らげてやっとお腹がすいてい のですが、 ついた』と大笑いしました。 待つ時 の長かっ た事 -ラン るの チ に気 を夢

第二 (昭和五年)

日 帰 b 高尾山等

家族六人ですが、子供が小さいので自動車

台で丁度よかっ た。

第三回 (昭 和 六

泊、

三峰神社

でした。

帰りは車中、

歌をうたい続けた愉快な旅行

高 尾 拝 山 島 神社、 K 詣 り、 多摩御陵を拝して、ケー 社 殿 にてお 祓をして頂 い ブ T ル で か

ら、 欝 蒼たる樹 木 の間 を、 雪を食 べつ 5 登

十三州を眺められる見晴台等見物して下

り、

で、 を約一 湯 迎えに来る様に電話で頼んで 0 里歩い 沢迄自動車 て、 芦ヶ久保 で行き、 Щ 村 の役 伏峠 の雪深 お 場 1 0 た自動 所 い ま 中

車で、三峰山麓迄行き、積雪の五十三町の急

坂を登るので、厳寒乍ら『暑い、暑い』と子

供が云い出し、 くだ』と云うと『寒いの反対、寒いの反対』 『冬の最中、暑いとはぜいた

と子供らは云いつつ登り、社殿で御祓いをし

な接待は有難かったのですが、その為冬の日 て頂き、三ノ膳つきの食事や宝物殿等、 鄭重

声 をかけ、 励し乍ら下りました。 は

短

かく、

五十三町の急坂を暗夜、

お互い

に

いた為、 足が切れそうにつめたく、宿に着い

ても中々寒くて寝られませんでした。

れなかったのが、子供達には辛かった様です。 その夜のうちに日記を書かなければ寝かさ

第四回 (昭和 七年)

泊 阿夫利神社等

で動きが取れ JII 崎大師 ぬ程でした。

に参詣

したが、

自動車

と人の洪水

呼をしてほっとしました。

幸

i, 雪の 明

るさが頼りになり山麓で人員点

併し自動車の中では靴がぐっしょり濡れて

翌早朝ケ 名物 のクズ餅を食べ、夕方大山 ーブルで阿夫利神社に詣で、 山 麓 に宿 御祓を

して頂き、それから急坂を雪で喉をうるおし

理で祝い、熱海に宿、伊豆山神社、魚釣り等つつ登り見晴台で、持参のお屠蘇とおせち料

で休養しました。

第五回(昭和八年)

二泊、御嶽神社等

めて、氷川に宿、宿の丁寧な正月料理に一同奥多摩の御嶽神社神前に於いて祈禱を受

翌日は、日原の鐘乳洞見物、雪ですべる道

喜びました。

を往復六里は苦しかったのです。

夜は炬燵を倒して畳をこがし宿屋に弁償し

た事を思い出します。

第六回(昭和九年)

一泊、富士浅間神社等

札を受け御殿場で富士浅間神社を参拝、河口私は厄年なので、川崎大師にお詣りし、お

湖畔に宿。

ましたが、 上手に滑り、 翌日 「湖水で 立つ事さえ出来ず子供等に笑われ 私に スケ \$ 1 ス 1 ケ を 1 L た処、 1 靴 をつ 子供 けてくれ らは皆

ました。



大雄山の天狗のうちわ (昭和10年)

チ + ×

の康彦が大きな下駄をはき天狗の

わを借りて持っている写真があります。

水鳥をめでつつ、 を見物して、 箱根神社にて祈禱を受け、 修善寺宿。 湖 尻 から雪 翌日 源氏 中 芦の湖で沢山 行軍 の哀話や江 で大湧谷

0

川太郎左衛門の溶鉱炉を見物す。

第七回 (昭和十年)

欝蒼たる老樹の間を登り、小田原大雄山本 大雄山と箱根神社

殿にて祈禱をして頂きました。

5



盛んに吹き出す,大湧谷噴火口(昭和10年)

下田ではペ

ル

リの寺、

吉田松陰のかくれた

石廊崎水神その他古い社寺に参拝した。

第九回(昭和十二年)

一泊 妙義榛名神社

下仁田方面より登山、妙義神社、社殿にて



榛名の岩めぐり

て、朝鮮旅行時の山奥にいる様な感がしまし姜を買ってお菓子がわりに食べているのを見駄菓子屋で休んで居た時、村の子供が紅生

た。

も感激が深かったのです。

厳粛な祈禱をして頂きましたが、

この時は最

何し

まごして、警察の御厄介になりました。

ろ山の奥だし四十年も前なので大変でした。

行させた処、

両方とも道に迷い三時間もまご

ですが、途中から自動車を呼ぶ為、

康彦を先

伊香保に行くべく、松井田口に下山し

たの

その日は夜おそく、伊香保に着。

翌日、榛名湖を通り榛名神社に参拝、岩め

欄干につかまり角兵衛獅子の様にうしろ向き裏の金山公園で写真をうつした処、まりえがぐりをしたりして、太田の吞了様に参拝し、

にそり返っている処が写り、傑作でした。

第十回(昭和十三年)

大晦日より四泊 伊勢等

勢山 L + 年目 持参のお屠蘇とおせち料理で十年間 田 に 宿。 の最終なので、 早朝二見ヶ浦 大晦 0 初 日に出発し、伊 日 0 出 を 無事 拝

熊山、奈良の神社仏閣を拝し、大阪に宿。旅行し得たよろこびを祝し、内宮、外宮、浅

文楽を見て、京都見物をして京都に宿。

だに忘れられません。

加減等をきき、京都だけあって料理には苦心加減等をきき、京都だけあって料理には苦心

していると思いました。

比叡山を拝して琵琶湖に下り、三井寺、石

山寺を参拝し、弁天島に宿。

翌日船で、釣りをして帰りました。

子供の成長

昭和三年頃は子供二人両手につるして歩けましたが、十年もたちますと、子供が皆リュックを背負い、スケジュールを立てて、親はリュをとなるとでついて行けばよい迄に成長したのには驚く程です。

才、まりえ十七才に成長、幸い十年間一人の邦彦二十二才、さつき二十才、 康彦十八

たが、その子の宏之がよく本家を守って居り不参加者もなく、長男は戦争の為、病に倒れ

ります事は、神仏の御加護によるものと感謝他の三人は現在皆、幸福な家庭を持って居

が、 る。 んで居ります。 りの子供に十年間を 私は 無駄でなかったと思って、心からよろこ と云う言葉を信じて、身心共に成長ざか 『子供は親の心を実演する 神 14 詣りを 共 名 K 優 L で た事

しています。

昭和31年元旦,名栗にて長男邦彦夫妻と孫と

合掌



飯 能 銀 行

飯能市が織物及び西川材木の集散地なので、 金融

次は岩沢庄三九氏があたり)資本金、 0 が初代頭取となって(常務には初代 必要上飯能銀行が明治三十四年に、 五十万円で創立 父平沼源 大河原浅吉、 郎郎

された。

であった、綾部利右衛門氏が飯能銀行の会長となって、 父は、公職が嫌いで一年でやめて、八十五銀行の頭取

私は大正九年に取締役になった。

ところが日露戦争及び世界大戦の好景気の反動、関東大

逝券取引所大混乱の報が全點を覆った。

明治三十四年 飯 能

銀

原重兵衛、北野正兵衛、平岡其藏が就任 五郎、監在役加藤荘三郎、中星治、大河 次、綾部利右衛門、中村勝次郎、木村福 見舞われ、貴産物は三、四割の減収とな た。さらに同年秋には県下が大風水害に いされ一時休業したものも出た始末だっ ず、飯能町の織物菜者は原料、糸高に厄 けていった。翌三十五年も景気は回復せ 河原改吉、岩沢庄三九、取締役向山小平 して不況にもまれ非常に苦しい対策を続 (埼銀四代平沼頭取の父)、常務取締役大 発足した飯能銀行は頭取平部原一郎 時期がパニックだったため気圧の目しかった設立は当然だったのだが、 には若干男様に映ったのである。 知られ銘仙、斜子、生制、玉朝、太 しかなく他町村に比して処女地に等 三十年九川設立の飯能貯蓄顕行だけ 十五年 (第一次) 飯能銀行解散核は ろが同町は金融機関としては明治で 駅からも多数出入りしていた。とこ れ、職物の買職商、木材商人が、他 知れ渡り非常に景気がよかったし、 また西川村の繁散地としても名が売 町の特点で「飯能制」として全国に 戦を生産していた。中でも生間は同 鉱便町はもともと職物の町として

> 全面戦争に入ったというニュースがより が全県に伝った。十日には宜戦を布告、 七年二月八日には突如日韓国交断絶の報 ころが旧正月の酒の酔もさめない翌三十 界は"経済の暗れ間"を持ち続けた。と パニックに見舞われたのちの県内銀行 うまれる

翌四十年一月には株式が大量落し、東京 の文明開化だと大いに暮んでいた。だが、 番目の電車を走らせ、農民はこれが本当 頭取の山崎豊が、大宮―川越間に全国ニ 十五銀行の取締役だった綾部利右衛門と 四十工場に増加した。また同年には第八 は三十五年の三十工場が三十九年には約 の五十万円にふくれあがった。製糸工場 二十二万円の生産高、三十九年には二倍 鈎物は戦争で飛躍的に伸び、三十五年が 拍車をかけ熱狂時代が出現した。川口の 道創立の動合は、この事業熱、投機熱に くと生れた。ことに同年六月の南瀬州鉄 各種の企業熱がみなぎり断会社がぞくギ して、三十九年下期には県内外を問わず 層経済界を暗くしたのである。 日臨戦争が終ると、戦後の無難を見録

を受けて、 て、さしも 震災等により不況 の飯能 開店休業せざるを得なか 銀行も預金 の嵐が吹き、県下の地方銀行は が取付 2 に見舞わ た。 れ、 相ついで取付騒ぎになり、パ 全国的に モ ナ 1 IJ ュ 1 4 から ニッ L かれ ク状 たので 態となっ 巻添

経済界の大波乱のうちに綾部利右衛門氏が死亡されたので、飯能銀行を閉店より救らべく、

私に後任の会長になるよう、名栗の平沼家に、重役が毎日責めに来られた。

当時は銀行がつぶれれば重役は私財を提供するのが通例であったので、 この為め小銀行の重

役は破産する者が多かった。

利 供 済界が混乱し、父の名を汚す事を恐れて、妻や番頭等と相談し、万一の場合平沼家の財 右衛門氏のあとの会長を引受けた。 も巳むを得ないと財産の半分を長男に譲って、万一取附の場合を覚悟して、昭和七年に 私 はそれを恐れて会長になる事を拒否し続けたが、飯能銀行の重役の熱意と、 飯能附近の経 産 綾部 の提

処が飯能銀行が閉店したのは今一つの理由があった。

で、 店の最も大きな原因となった。 当時、 飯能 記銀行 武蔵野鉄道には飯能銀行の重役四名が兼務して居って、この の岩沢常務に対し、 四氏から十五万円の不良貸付をさせられたのが、 鉄道が行きずまったの 飯能銀行閉

五 闘 台の分譲地三万坪を交換する事が出来た。 力をかけていたので、 万円が必要となり、 さわぎをして居った。 そして堤と五島 岡の両財 交涉 堤氏もこれに対抗するべく、飯能 処が五島氏が系列会社の富国徴兵の債権十数万円を持って、 閥が、 の結果箱根強羅 武鉄の乗取り競争をし、 の温泉水道附きの分譲地二万五千坪と、 銀行 武鉄の総会の度に、 が武鉄に貸付けていた不良債 両財閥 西武富 の子分が乱 武 鉄 士見 権 に圧

ح れ には私は箱根に数回出張して、 地図と厖大なる現地を引合せるのに苦労した。











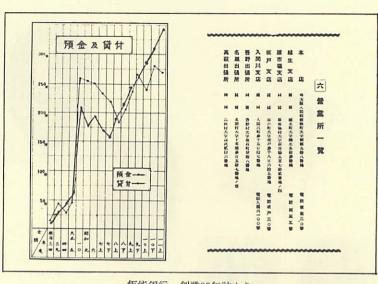








飯能銀行 創業35周年誌より



飯能銀行, 創業35年誌より

宮内省金庫

の十五銀行、

はては全国

の銀行

0

3

かのぼって見るに、

昭和初

期の不況は、

斉休業。

位まで減少し 時 四支店と三出張所となってい 二百五十万円位 (残る百万円は不良債権 の預金が、 百 た。 五. + 0 担 万円

保

谷支店を廃止し、

同 時

K

的

場支店の整理

をなな

飯能銀行も大地主の高橋氏の没落の為に、

保

不良債権が有効な不動産 取付けも止まり、 これを宣伝し飯能銀行 漸次回復して来た。 は の確保に替ったの 世 0 信 用 を 得

行に買収されたり、破産したり壊滅の状態で、 県下八十にあまる地方銀行は大銀 **—** 73 **—**

預金で) 手がつけられ ない状態であっ た。 株価二十五円払込が只の三、 四円でも買手がな か

2

た時である。

武蔵野 り、 会長を引き受けた私 五. カ年 銀 行 にして 0 預金 預金三百五十万円、 が非常に減少し は、 飯能 駅前 たので、 に五カ年間、 貸出三百万円迄上昇し、 飯能銀行に合併を申込ん 二階ずまいをして、 為に 飯 能 銀 行

の整理にあた

平沼を除外するとはもっての外だと、 込まで引上げ復配して、斯く飯能銀行を再建し、 されてしまった。 その合併の総会にて、佐野作次郎氏が頭取となり、 佐野頭取が私を取締役にせざるを得なくなった。 ところが川越方面 の飯能銀行の株主が、 銀行にも、 株主にむくい 私にも猛烈な運動 私は全く除外 株価を払 た、

から

あり、



昭和10年, 飯能銀行重役, 旅行時のスナップ



若い頃, 天狗さまと綽名されるほど山と木に親し んだ, 木に登って四囲を検分する, 平沼弥太郎

西川林業地に注く。愛情は、永久に林層を残そうと、白雲山を鳥居観音の寺 領にした。昭和40年山の手入れ打合せである。



山 林 関 係

会副会長 た功績により、大正十五年(三十四才)より昭和十年迄、会長出井兵吉氏の下に、埼玉県山林 平沼家は、 (十七年間)。昭和八年より昭和二十二年迄、埼玉県地方森林会議員を任命された。 西川林業地の中心である名栗村で十一代、林業を専門とし西川林業の発展に尽し

開 い が総裁をして居られたので解散を命ぜられ、森林組合と改名され、その会長となった。 大東亜戦も酣であったが、親会社が大日本山林会で、株組織だったので毎年府県毎に大会を たが、 朝鮮、 台湾、北海道等から始まって、必ず県代表として出席した。ところが梨本宮

昭和二十三年に埼玉県森林組合連合会の会長となった。 昭 和十 七年 より昭和三十六年迄、 名栗村森林組合長、 同時に埼玉県森林組合理事長を務め、

そして、埼玉県木材株式会社、 社長を務めて、木材の供出並に銃後の仕事に専念した。

埼玉県林業会会長、並びに日本林業会の理事を終戦迄務めた。

子 は居らず危険なソリの搬出は婦女子もやったので、危くて見ていられない様だった。 日 本木材統制株式会社の取締役の時、 軍部の命令により所有者の許可なくこれを伐採し、 男

4 所破壞 陸 路 は爆撃で不通 した為に、大きな損害を与えた事もあった。 になったので名栗川を利用して流したところ、大雨にあい、 下流の橋を数

その間、 埼玉県地方木材の統制株式会社が設立され、 横川重次氏が社長になり私は辞めた。

そ の人は 共產者 に狙 わ れ 負傷 して数年ならずして死亡された、 私はこの銃後の仕事に忙殺さ

n

たが、

,°

ージにかからずにすんだ。

きな功績であったと信ずる。 地主の会が まって、林政研究会を開いて、 ようやく山林解放を防止することが出来たのは、最も大きな仕事で、私も参議院議員として大 放されると乱伐されて、 当時 は占領下で、 解放反対 農地解放と同時に山林解放も、 (多くパルプ会社が主体となり) この会と協力して猛烈な反対運動をし、 林地が荒廃する事を心配して、衆参両院で林業議員が十六名ば 林政一般の研究と同時にG·H·Qに交々陳情して、 G·H·Qで計画されてい たので、 民間 山 でも大 か 林 ŋ が開 集

名位 Ш 林 帝 や株式を保護育成する会で、 国森林会、この会は大正末期に出来た会で、本田静六博士を中心に、 しか存命して居らず年に一、二度の役員会があるが最も懐しい会である。 今でも創立当時の会員名簿があり、 当時 会員より寄附された の役員は今、 五、六

が設立され会長。昭和二十五年大日本山林会理事となり、 昭 和 二十二年埼玉県林業協会並 に日本林業協会の 理事。 昭 それぞれ現在に至る。 和二十 五年、 国土緑化推進委員会



緑化推進委員会埼玉県大会挙行。天皇陛下の御播種に御介添する、平沼推進委員長。 昭和三十四年四月五日、埼玉県寄居町金尾にて天皇、皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ、国土



国土緑化推進委員会は、毎年県の順位で大会を開き、天皇、 皇后两陛下、 御来臨のもとに、

盛大な植樹祭が挙行される。

両陛下が御手植を遊ばされ、埼玉県では昭和三十四年四月に大会を寄居で挙行された。

その時天皇陛下の御播種に、委員長である私が御介添の光栄に浴した。

その他、 いくつか の山林団体に関係して居ったが、またG·H·Qの関係でカムフラージして

居った会もいくつかあった。

へ東亜戦と銃後

昭和十二年七月、 昭 和六年、 柳条溝に端を発した満洲事変、 蘆溝橋事件に始まる支那事変は、 犬養首相を官邸に襲撃した五・一五事件、 関東軍指令官松井石根大将の下に、 中国本 続いて

土に戦線を拡げた。

た 支那 ので、憲兵にねらわれて名栗に逃げて来られた事がある。 通 の水野梅暁師は、中国は厖大な国なので、山東省を越えるべからずと不拡大を主張し

案の定、戦は泥沼に突入してしまった。

まれず戦争に突入すべく、ついに軍部は陛下の和平の御言葉にも、 当時、 米 · 英・仏・蘭等 の干 涉、 A . В . C D 包囲 陣という日本の経済封鎖等、 御前会議も耳をかさず、 止む に 昭

和十六年、大東亜戦争に突入した。

昭 和十八年、 非常時体制を敷き、 十九年からいよいよ本土への空爆熾烈となり、 絶えず空襲

に見舞われた。

滅 ほとんどが焼け野原になった。更に七月末までには、 した。 昭 和二十年三月十日、 東京下町の大空襲、 更に五月二十五日の、じゅうたん爆撃で、 全国主要都市はほとんど空襲によって壊 東京の

田 の家 В 29 は の通路は、 残ったので、焼け出された親戚の人達が避難して来て、 いつも名栗の上で山火事もおこり、 機銃掃射を受ける様になった。 名栗の家も、 江古田の家も大 幸 い 江古

人数となった。

当時 は爆撃により鉄道も寸断されていたので、県会とか東京の用件は自転車で通った。



昭和28年 長崎原爆落 下地をとむ らう,平沼 夫妻

昭和29年 ビルマにて 世界仏教徒 大会開催され を加して 日本人墓地 に参拝す



数尺残して皆折断されて、

その威力には

驚

いた。

保谷あたりでは一

頓爆弾

の大穴が

あり、

まわりの木は

には、日本の撃沈された船があり、所々出合った。戦後、外国旅行をした時、東南亜インドネシア等の海

Ļ 堪えなか 冥福を祈って合掌したが、 されているという所の上空を飛行機で通った時、 1 如何に 1 100 2 1 た。 無謀な戦争をしたものだと、つくづく慨嘆に ル作戦の時、ジャングルの中で二万人も戦死 戦争 の傷痕を目のあたり見 心 か 聞 5

3 戦 後、 みじめなものであって、 7 y カ 1 サ 1 0 占領 議会でもG 政策 は、 実に敗 . Н • 戦 Q 国 0 0 幹部 悲

が常につめかけ、 言うなりに動かされ、 追いまわされたもので、 敗戦の悲しさをつくづく痛感

した。

当時、 天皇陛下がマッカーサーの所に行かれ『国民を飢から救って下さい、自分はどうなっ

ても良い』と懇願なされたことは肝に銘じて忘れられない。

作り、食糧の確保に夢中になってやった。

戦後の食糧

・物資の不足は甚だしいもので、

名栗の門前の畑を一

生懸命

麦フミ

や野

菜物を

幸 i, 餓 死せずにすんだが、 ジ ャガ芋で飢をしのいだり、 リッ クサ " クを背負って随分遠方迄

買出しに行ったものである。

望を持ち、 然し 敗戦 L. の混乱を日本人はよく切り抜けて、よく今日の経済大国になったものだと思う。 かに辛くとも生き抜く日本人の偉さをつくづく痛感する。 希



子育地蔵尊, 木彫 1.5m 昭和18年作 檜の根元を利用して, 台座共一木彫 像の 子供は孫をモデルにした。



— 87 **—**

松井石根関東軍司令官と興亜観音

た。 皇道』 に山桜等を奉納植樹して下され、 大東亜 の字を書いて頂き、大きな石に彫られて鳥居観音仁王門の前に、 戦争酣の頃、 時の名栗軍人会分会長故吉田喜一郎氏、 往時上海方面の最高指揮官であられた松井石根大将に その他役員一同が、 その記念碑が建立され 白雲山境内 『宣揚

も倒したものですが、私は『宣揚皇道』の記念碑はそのままに残して置いた。 敗戦 におびえた日本は、 軍事に関する証拠物件等は全部焼き捨てて、 消滅したり、 忠魂碑等

本堂の須弥壇の上に一枚の名刺を置いて行かれた。 処が、 終戦後十年位もたった頃でしょうか、 松井大将ゆかりの方が名栗に来られ、 鳥居観音

そ の名刺には 『松井閣下の遺墨の碑を、 よくそのまま倒さずに置いて頂いたことを深く感謝

致します』という事が書かれてあった。

され 者 の冥福 熱海 これ たも 市 ので 伊豆山の鳴沢山、 は松井大将が上海方面 を祈る為、 ある。 各激戦地の血に染まっ 山腹に昭和十五年建立された興亜観音 の最高指揮官の時、 た土を持ち帰り、 戦死した部下二万三千余柱と、 その土を以って観音様を造り建立 は、高さ三米 位 中 の陶 国 0 製 戦 死 K

守 かい らその の方に案内されて拝んだ事 そ 0 右 遺 K 骨 興 0 亜 観音本堂 部を秘密裡 等が ずがあっ あり、 汇 苦心惨憺 殉 た。 国 の七 の末持帰 士が り、 絞首刑 ٢ K 0 なられ 裏山 の岩穴に隠 た時、 横 して 浜 市 あっ 久保 た 山 0 0 火

堂

氏 の筆 そ 0 一になる 後、 世 論 了七 も落ちつ 士: 0) 碑』 き、 を彫 昭 和 三十四年 られて、七尺位の記 に興 一種観音 の右 念 側 碑 に遺 が 建てられ、 骨 を埋 8 その碑 元 総理 の裏面 大臣吉 K 田 は



興亜観音七士の碑

七士が巣鴨のプリズン絞首台で、

昭和二十三

武藤 本村兵太郎 工程 以毅 広田 弘毅 広田 弘毅 本村兵太郎 華機 東条 英機 東条 英 大田 東 東 面

る直 年十一月二十三日、 七士の署名をされたのが、 手に墨汁をふくませた筆を持たせて、 ての世話をして、手錠をかけられた不自由 口まで付添い、 れてある。 前、 教 悔師、 伝言を伝え遺品を預 花山 午前〇時二十分絞首され 信勝 この碑 師 かい で裏面 絞首台の入 b 絶筆 総べ に 刻 な 0

係者たちもよく参拝され、時たまこの碑に抱この興亜観音には、昔部下だった人や、関

きついて嗚咽される人があるとのことです。

その後、伊豆山にお住いの松井大将未亡人

とのことである。これは日本と宗教的関係が深く、またインド人全部の根強い 連合国代表のインド、 ,: 1 ル 判事 は、 断

第8回,世界仏教徒会議にて インド,ブタガヤ,釈迦尊像の前で。

あ

り、

その席には東条氏外四名の未亡人

7

x

IJ

カ

に帰国されるので盛大な送別会が

5

n

る米国

から日

本 K お

い

でになり、

再び

昭

和四十三年花山信勝師が、

移住して居

が出席され、

東条大将未亡人の席上の挨拶

K

は、

私も大変複雑な気持で、

い であった。

罪

は

無謀であると云う厖大な反対

判決書

「を書

か n

た

信仰

心

0

現われで

あると思う。

K お目 にか かっ たことがある。

胸せまる思

獄中の七戦犯もこれを読んで多大の敬意を現わして死んで行かれたとの事である。

ら一方的判定で正邪は問題にされなかったのである。 敗戦の悲しさで、都合の悪い証拠は全部採用されない。 敗者を逮捕拘禁、 絞首刑にすると云

いという証拠が沢山現われたことは、戦争にはつきもの乍ら残念なことである。 併し、自衛戦争なりとする皇軍が、比島やタイ、その他で捕虜虐待や残虐行為がおびただし

松井閣下の辞世

無畏を念いて 安らけくゆく

人の世に 残さばやと思う 言の葉は

葉はない。 命ずる様な軍人でなく、古武士的な血も涙もある立派なお方でお気の毒であると云う以外に言 この二首や敵味方の英霊を祭られた興亜観音建立の偉業から見ても、松井閣下は残虐行為を

を止めてご覧下さい。 どうか鳥居観音にお越しの折りは、仁王門前に建てられているこの松井大将の記念碑に御心

そして、当時を追懐すると同時に将来の日本の発展を祈念して頂きたいと懇願する。

合掌

中 た。 昭 なので四年間、 当 和十八年、 時 は選挙でなく知事の推薦で私が補欠に選ばれたが、 吾野の浅見君が死去したので一年の欠員が出来 県会議員を務めた。 戦

2 爆撃中なので、 西武鉄道も寸断されて居り、 自転車で浦和に

た。

通

出る意志は無かっ

終

戦

後

0

各議会の総選挙

には、

政治が嫌

い

な私なので、

県

0

防空壕内で

爆弾

の音を聞き乍ら会議をしたものだ。



昭和18年,埼玉県会の会合,座る左端,平沼弥太郎

金 0 か かる選挙に出ないとはズルイと非難攻撃されたので出ざるを得なくな 0 た。

氏 選の 0 そ パ れで、 見込はないと思っていたところ、衆議院をやれと云われたが、 1 ジ が 県会議員に出るつもりだったら選挙の神様のような細田栄三氏が とけて出 馬され る事 K なっ たので、 これまた全然見込がない。 前議員 の有 立候補されたので 力な平岡 良三

L 父、 た 事 方 ろが参議院 は ts から 割 い 合 0 で に 空 は 加 JII い 口 えて選挙経 T か い る ら小林英三氏、 0 で或は当選 験 0 な い 熊谷 出 私 来 は、 3. から社会党の勝田氏が立ち、 突然 かと思っ の、 たが 初 8 埼玉 県では自由党が二名当選 入間、 比 企、 秩

とこ

馬 ts 0 で 誰 \$ 当選するとは思

万五千票だっ

たが、

万五千票、

勝

田

氏

几

開

票してみると、

秩父から 小林英三氏、 万票、 お 私 2 くれ から 7 \mathcal{F}_{i} い な か P. HTTERNETHEN SHEAN Hararan Tolland なける大な機能が失るれて 0 一日の日本を見しまる日本日 国公 た。 のようのであるかない、自己 曹、罰王平士万省 ないのうイリアムス回答と問題 東京の記を記れ「いまか成でき 間田のおの地域は 1 医水に物べ **製料団配数公司法を加速内法** 重要法案通されば一時間よ止まれ なせらいたいうを向けった。 だ、質問とは「世よう中と語な 上の間で日田のたけるの間は関 お田江田田 かっち 「おその子 日十日以際と聞く問う回れないしと 7 に機能が機能がありを開ける時 0 出 WELL STRABLY とを開かなければ開助中止で日 本面はおいる。からでは さっただった日間のいうこ 江湖の第一部党の世間記で予算 わないかが、質問しが増減っ **単語では間は多はのに何なる** 15 「おった」、明智干三年 では、そうながの大くて大幅間の のままがないましていました。 METHOD MANNET FRE せる学はそは個大られた。 **社区出版的典"田田八湖 新聞大師は第十一門至大** 拉戴野馬西 校在日十一四十七分。日 大学の経過では、日本の日本 我, 我心比四分。我因上40 S. I WEST OF SAME TA は、成となっている。 Canada Tri Cristalini 力器は、飲食は暖間を「 となべ 本のの世代



第6通常国会最終日,中央ゴシック柱左が平沼弥太郎議員, 前列左5人目参議院 議員, 重宗議長

我

々議員は参、

衆両

議院

0

間

をか

けずり廻っ

て、

時

などはG・H・Q

より議会に大勢来て頑張っ

てい

T

ざるを得なか

2

た。

殊

に憲法等の三大法案

0

決

議

0

会

0

時

計

を

止めて時間を延長してまで議決をさせ

n

た事

すもあっ

た。

名な逸話として、 民 を T そ 餓 前 0 当 死 記 一時、 かっ 0 5 如 天 救 < 皇 2 7 実に恐懼感激に堪えな て下さい 自分はどうなっても 陛 下 から 7 <u>_</u> " と懇 カ 1 願 + なされ 1 良 K い お た 会 かい 事 ら、 い は に 有 玉 75

7 らくも六年議員 万五 千票出 に当選し たので、 た。 勝 田 氏 を四千票追越 7

占領 下だっ たのでG・H・Q 0 言 い な b K な 5

5



参議院大蔵委員長時のスナップ

切 員 重大時間 5 \$ 生活を無事務めて、支援者 って次の参議院議員の選挙に出 ないと思ったが、 たないのでどちらか一方止めなけ 辞めても支障はないと思 期であったし、 銀行は 議院 ノル は の反対 いい 陣 笠 か 六年 馬 0 ソ L を 私 ル 九 な 押 0 な かい ば

議

0

2

た。

か

を押 参議院に当選後二年して、埼 しつ けら れ、 議会と埼 玉 銀 玉 銀行 行 0 東京 0 頭 本 取

部との

間を行ったり、

来たりして最も多忙

な時代であった。

大蔵委員長もつとめたり、

これでは体

0

ts

埼玉銀行の生立ち

四行があり、資本金、預金、行員数とも武州・八十五で九十%を占めて居た。 戦争の熾烈さは、県毎の金融をも統制した。 当時埼玉県には武州、八十五、忍商業、 飯能 0

仕事を引受けてくれる様に懇願して来たので、これを了承し私は引受けた。 大蔵省の慫慂により合併の問題がおこるや、 佐野作次郎頭取が私に頭取となって四行合併の

は私と佐野作次郎監査役の二名だった。 飯能 銀行 は有利な条件のもとに合併する事が出来た。 そして埼玉銀行に重役として入ったの

ので、 その時、 当局もこれに耳を傾けて三行合併を進めていた。 忍商業銀 行が合併を反対したので、 私は忍商業を除いた三行の合併を当局 忍商業は残されては大変と後から仲間 に迫っ た

に入る事になった。

Ш n たが、 「崎嘉七氏が二代目、これも一年余で辞職の已むなきに至り、 当時 の頭取は、武州銀行の永田甚之助氏だったが三年余にて死亡されたので、八十五銀行の 又辞職せざるを得なくなった。 次に大谷三四郎氏が頭取になら

これ は新銀行に対する主導権争いで、 如何にも合併銀行の統制の難しさが判る。

埼玉銀行の頭取 大谷 頭取、 辞職 になる様強硬に の後、 頭取 になりてがない為に、 勤めて来た。 最も小さな飯能銀行の頭取であっ た私に、

固辞 私 したが、 は当時、 小谷野氏、伊地知氏外数名の重役が病院に、 参議院議員で非常に多忙であったり、 健康を害して慶応病院に入院し 二月の寒い時に私を説得に ていい 力 た 月も ので

通って来られた。

で時間をつぶし、 私 は、 飯能銀行でコリているので、なる気は無かったので断り続け、 夜の十時頃病院に帰ると、 寒い廊下に並んで待って居られた。 会うのを避けて料理屋

固辞し続けたが、遂に根負けして、 なんと言われても火中の栗を拾う様な難しい合併銀行の頭取と云う大役は思いもよらぬ事と 色々の条件を附けたのを承知されたので、 遂に埼玉銀行の

頭取を引受けざるを得なくなった。

の裁決等には大急ぎで議会に行き、陣笠の一票を投じたものである。 そして、 丸の内の埼玉銀行東京本部に於いて銀行の事務をとり、議会には秘書を置き、 法案

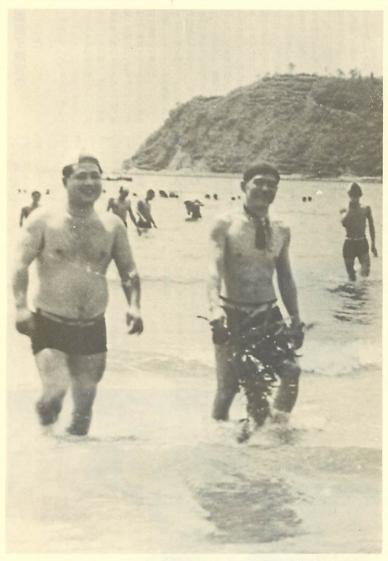
埼 玉 銀 行

名ずつ数回首切ってしまったので、 と云う事に専念し、 当時 八十五と武州銀行が勢力争をして居り、 内郎 の闘争甚だしく、 内部抗争は鳴りをひそめた。 私は両行の常務を二回に亘り解雇し、 両行から入って居る重役連は、 主導権を取 行員等も十数

いろう

続発等々、預金者への公共性から厳しかるべき銀行業務が、斯くの如き有様であった。 当時 入らない不良債権の金利を手形でつじつまを合せると云う又個人をかばう為の不良債権 埼玉銀行の癌は四行合併のしこりと、 不良債権千四百口の整理が最も重大な問 題 であ

源師、 ずつ四行の行員を混淆して集め、二年にわたり懇親融和をはかり、かつ鎌倉円覚寺の朝比奈宗 私 はこの二点に全精力を集中した。先ず三千名の行員を一丸とすべく、逗子寮に五、 友松円諦氏等有名人の講演会を常に開いたり、 私もつとめて出席して話をした。 六十名



昭和25年7月, 逗子寮, 海のひととき向って右側平沼頭取, 左が 写真提供 池内徳雄氏

こと 一逗子講習の

いきで平沼頭取も親しくご来辺

初めて研修に参加させていただき

預金取扱事務で、各店の担当者が として行なわれた。講習の重点は 委員会の設置、その主催による集 が二十五年六月に発令され、教育 員の過酷な作業であった。しかし は全て算盤という具合で全員総動 統、当時はベン書きの清書、計算 行員も約三千名で、家族的なふん 三泊四日の講習を受けた。当時は 合研修が逗子寮で第一回臨海講習 でした。しかし体系的な行員教育 輩の指導手引きに頼り苦心の連続 また仕事は、当時は規定類集もな 時で四時前に全員終了、得意先の れば勧誘等の事もなく終了、早い もなく、眼な時は一日の仕事が終 反面、今のような金融機関の競争 晩残業で約一カ月九時、十時の連 は初日で五時帰宅、翌日からは毎 十月は普通預金の利息日、この日 行日である。三、九月は決算月で く、それぞれ独自に店の或は諸先 しんだ。両極端な時代であった。 プール或は卓球、野球と存分に楽

であります。 く埼玉銀行の前途を祈念致すもの 銀の一員として益々の発展を見る と、また益々親しまれ共に伸び行 につけ、われわれの責任の重大さ 偲び今ここに三十周年を迎え、都 の時の一スナップである。当時を て楽しんだもので、左の写真はそ われわれと共に談笑され、浜辺に

昭和二十三年三月十日、私の入

大宮北/池内 徳雄 (23 · 3入行)

まれたものではありませんでし た。しかし、私も四年日に入って 店で職場内研修を受けるという恵 合研修により講習なうけ、更に支 ます。当節の新人行員のように集 よって仕事を覚えていったと思い の方達の見よう見まねで、経験に 修も何もなく、一から十まで先輩 二名)で、当時は現在のように研 の熊谷西支店)に就職致しました 採用人員五名(内男子三名、女子 二年四月一日私は石原支店(現在 今を去る二十五年前、昭和二十

> いるのは私ただ一人、ご他界に ように思います。石原支店に入っ ったり、おやめになったりで正 に優雅でのんびりした時代だった 銀行の逗子祭で行なわれたもので めに努力して行きたいと思ってお 四人の分も、埼玉銀行の発展のた 孤軍奮闘ですが、これからも同期 した。今から考えて見ますと非常 にいかめしい建物内でなく、埼玉 しい研修で、現在の研修所のよう 講習、午後は水泳という非常に始 ました。それは二角三日で午前中 た同期五人の中、現在動務と

鴻巣/山下 俊子

幸せね 一若い人は

(23 · 4入行)



平沼頭取と指相撲

午前中の講習

親睦の食事

本のロープ 小川/堀

一十万円は鬼の首?

東岩枫/野原 正司

は備付けのボートやテントがあり を囲んでの座談会が開かれ現在で 子海岸での海水浴、夕食後は重役 研修日程は午前中講義、午後は逗 夏期に退子寮で行なわれていたが は味わえない良さもあった。祭に 昭和二十八年頃の宿泊研修は、

右端、寺田寮長

蔵を改造した店で、裏の方に大き 行した当時の菖蒲支店は商家の十 いようで長い年月である。私が入

だ。いま静かに思いおこすと短か 前列右二人目、須田寮長 勤続25年 夫婦ならば銀婚式



運田/岡登志子

益を目ざして邁進してゆくべきで

その炭火を時々搔き寄

長椅子で 仮眠

海水浴やら散歩やら夜 逗子での講習も午後は のですから……。また うず高く積まれてゆく す。驚くほどのお金が せながら札の再鑑で 調度/友道 照代

> られます。スポーツを経験された 丸となって共通の目的・共通の利 燃えています。われわれ行員が一 自身も燃えています。カッカッと めにあるように感じられます。私 燃えるという言葉はこんな時のた 方はご理解できるかと存じますが るがために闘志も一段とかきたて た一方では、このような環境であ 必要かと思われます。そして、ま を完遂するためには非常な努力が ●金融情勢のきびしい中で、目標

共 K 海水浴や西瓜割に興じたりして行員との融和に務めた。 その為合併のむずかしい行員の

団結をはかる事が出来た。

任 してもら 債 権 整理 K 就 千四百口 い ては、 以上あったコゲッキ不良債権 優秀なる行員五十名を選抜し、 の整理をしてもらった。 審査部をこしらえて島崎君を部長に就

対し随分危険な思いもした。 みな体を張って仕事をしたもので、 債権者から強迫されたりした事もある。 悲憤慷慨の徒に

不良債権の約半分は競売に附し、

あとの半分は更生することに努力した。

が、 銀行 0 整理は、五 の癌であった不良債権が大体整理の目鼻がつき、部から課へ、 カ年の努力で目鼻がつい たが、 然し数億円以上の償却すべき欠損金が 課か ら係三名 あっ た

は減少、七年目には不良の分類債権○・二%と云う全国銀行きっての有数の業績となった。

理部

命がけで努力をしてくれた行員のおかげと常々感謝しているわけである。

然し、こういうやり方に対し、検査の度に大蔵省にいじめられたりしたが、数年後皆優良な

債権になったので、検査官も驚いて謝まってくれた事もある。

今日この優良貸出先の資産は厖大であり、埼玉銀行のドル箱になっている。

不良債権の整理が順調に進んで、行員もようやく預金吸集の意欲が出、 預金面の開拓にすさ

まじいものが出て来た。

他行 の預金増加率を上廻る一歩前進の線を打出す、 この考へ方を先取りして行員達は一 生懸

命精進してくれた。

また顧客はこれに答へてくれた。



■ "不撓不屈" の精神

前田 安彦

年の目標一、五〇〇億円を合言葉 起こし、まさに隔世の感です。 た頃の預金は七一四億円で、15周 日銀から埼玉銀行にお世話になっ 立派な都市銀行に成長した姿を見 二兆円に垂んとする預金を擁する に全行奮闘中であったことを想い て、感懐一入深いものがあります 埼玉銀行が創立30周年を迎え、 不思議なご録で去る31年5月、

設当時の悩み等々、過ぎし日の苦 店営業分野の拡充、名古屋支店新 を頼み歩いた頃の苦しみ、大阪支 の看板で都市銀行並みに公金預金 成のため苦慮したこと、地方銀行 ように頭の中をかけ巡るのは老人 しかった想い出ばかりが走馬燈の

■国際銀行としての

名声に敬意

外為扱高月二、〇〇〇万ドル達

の感傷であろうか。 数多い優秀な若い人材に恵まれ、 何はさて経験豊かな経営陣の下

> おどる思いがする。 伸びて行くことを考え合わせて胸 続々と「サイギンの旗」が海外へ 香港に加えて欧米、東南アジアに 盤に立地し、資産内容抜群、殊に 首都圏の中枢という日本一の好地 ニューヨーク支店を始めロンドン

かけて誓い合いましょう。 手を組み合って邁進することを神 す。どうか不撓不屈、ガッチリと ずしも平坦ではないと考えられま ことが熱望されるが、その道は必 銀としてさらに大きく伸びて行く 押し進んで頂きたいものです。 も「サイギンの旗」の下に堂々と 耳にするが、わが埼銀はいつまで これからわが埼銀が異色ある都 近時金融機関再編成の噂をよく

(富土倉庫運輸的社長— 玉泉会・光当行役員)



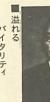
■東北枢要都市に



サイボー明社長 飯塚 孝司 支店設置を



バイタリティ



黒川 倉好

オリエンタル写真工業的社長



■心の糧を創り出す 如平凡社社長 下中 邦意





■知と資をもって 日本光電工業的社長 荻野 義夫

親しみやすい銀行

■30年近い

歳月の流れに

果海網藻明社長 喜代永 政雄



外為部門の充実



トーヨーカネツ郷社長 衣川 善吉

蛇の日イシン工業物社長

前田 増三



■『お付き合い・ サンケン電気の社長 小谷 洟治 二十七年』



■埼銀の繁栄に (埼玉縣龍工菜師社長 松崎 あやかる 博

十年間 の全国銀行平均十六倍の預金増加に対し、 埼玉銀行は実に二十七倍、 莫大な預金量で

ある。

当時、 一店舗当りの預金は全国銀行第一位、地方銀行の枠にしばられ店舗数は少ないが、各

店共に充実、 大阪、名古屋へも支店を開設した。

次に備えて設備の改造、 合理化、 機械化等十分にする事が出来た。 体制が整い利益がどんど

ん上昇した。

取引者が優良であると云う事は銀行の最も大切な資産であり、 業績も収益も上昇する。

は支店のすみずみ迄ずい分骨を折らして気の毒であったと思う。 面 では不要の廊下の電気を消 したり、 鉛筆、ペン先までリン ク制にしたり、 経費節約で

経

理



多額 の償却をやる為に全員で無駄な金は使わなかった。 よく団結して 発展に 努 カしてくれ

た。その功績は実に大きい。

気㈱会長)石坂泰三氏を、埼玉銀行取締役に就任して頂いた。埼玉で生まれ、 これら我国財界の巨頭就任は、埼玉銀行にとって盤石の重みとなった。 より前進する為、 日経連代表(秩父セメント㈱社長) 諸井貫一氏、 また経団連会長 埼玉で育った。 (東芝電

日本人の心を金権主義によって荒廃させ、破壊と汚染に蝕ばまれていると云えよう。 5 り返って見るに今や我国は、 戦後の急速な経済成長と物質中心主義、 美しい日本の国土と

団、下水道、 首都圏に強い地盤を持つ埼玉銀行に於いては、これが影響をまともに受けるものであり、公 汚染工場の設備の改善等々、高密度の経済、 消費、 生産についてその資金需要は

厖大なるものがあると思う。

政策 の推

営政策をとりはじめた。昭和二十四年五 配乱期を脱したサイギンは、積極的経

の秘書化ともいわれた。平沼頭取は、ア らせた。数年にわたるこの機構は調査課 し、銀行内外の問題の研究・企画にあた 月の機構改正では調査課を頭取席所属と

りの預金取扱高は、日本の三倍になって 性であった。アメリカの銀行員の一人当 しめるようになり、事務機構もそれにあ いたのだ。機械が事務処理の主要部分を ったものは、アメリカの銀行経営の合理 八)にも参議院議員の資格で時席した。 フランシスコの講和会議(二十六・九・ 立役者、ドッジ頭取とも会談した。サン クオプデトロイトでは、ドッジラインの 帰朝の土産として、平沼頭取が持ち帰

マーチャント電動計算機、翌二十八年二機械の研究をはじめ、昭和二十七年四月ただちに、業務課が主体となり、単能わせて合理化されていたのである。 ユニットテラーシステムが実施された。れらの機械にあわせた窓口の新しい組織化易わせた窓口の新しい組織 同年六月普通預金会計機(ナショナル二千号)、 ったのである。 しぼった。貸付関係の機構を拡充し、検 どの行内業務の担当を総務部と業務部に

が、しかしこの積極性がサイギンを大き からも新しい企画を立案した。時にワン イデアをとりあげて大胆に実行し、みず

アメリカの銀行業務視察を主な目的と

ンといわれ、多少の行き過ぎもあった

びたった。三カ月にわたって連邦準備銀 して、平沼頭取は二十六年七月羽田を飛 く飛蹴させたことも事実であった。

パンク、マニュファクチャーズパンクな ショナルパンク、チェースマンハッタン 行、パンクオブアメリカ、ファーストナ

この結果、

記帳事務が正確になり、また

査部を新設し、外国課を外国部に昇格さ



挨拶する平沼頭取



屋台の前で互に交飲, 将来の発展を 誓いあった

認銀行指定の布石となった。

全店の預金増強体制を確立したり、教育

また、預金増強対策委員会をつくって

の決定的瞬間は、平沼、秋元時代のはじ ゲームを演じていたのである。

国内市場には滯貨がふえ、企業倒産など 向をたどったものの、経済活動は停滞し けて行った。王座の名を独占する処とな トップにでてからは、文字通り他の追随 四年九月である。それまでのサイギンは の深刻な状況があらわれはじめた。サイ 均衡予算が成立した。インフレは収束方 営業地盤拡大 を許さず、風の中をまっしぐらに駈けぬ とができず、北陸、福岡各行とシーソー 地銀の第一位を目標にしながら果たすこ ンが地銀のトップに躍り出たとき、二十 に乗った時であり、もう一つは、サイギ まり、つまり二十四年春。高度成長の波 機構改革であった。まず、経理・庶務な この年である。その手はじめは地間めの ギンが高度成長のスタートを切ったのは 昭和二十四年、ドッジ・ラインによる ひとたび

サイギンが地銀の王座をしめたひとつ 道 国部は翌二十五年一月、乙種外国為特公 の残滓の整理を可能にし、朝鮮動乱プー ムに乗じて、有力取引を拡大させた。外 貸付機構の拡充は、戦争中の軍需融資

の流通資金の捕捉を狙う積極策の第一段 かり、加えて経済交流のある他経済圏と 地盤から、さらにその周辺への進出をは して埼玉県と東京都下三多摩地区の営業 庁、上福岡、改革と支店を新設し、二十 二十六年栃木、立川、高崎、二十七年県 は八王子、田無(富士銀行から継承)、 八年には待望の大阪支店を設置した。そ 進出から始められたといえよう。翌年に 実質的な地盤拡大は、二十四年の鹿沼

二十五年三月、二十七年五月と機構改革

業店間の上下左右のパイプを太くしてい 地域的グループ化を明確にし、本部、営 この間、母店規定を制定して、営業店の 化に対処する変り身のすばやさであり、 は数回にわたって行なわれた。情勢の変 集合教育をはじめたりした。この後も、 委員会によって行員教育の方策を研究し

創立15周年祝賀会

昭和33年10月

総 預 金 1千5百億円

償却前利益

15億円

資本金 (30億円) 15億円の増資



三大目標達成の三ツ組金盃



平沼頭取の説示

主要事項

大阪支店開設

本店增改築 名古屋支店開設

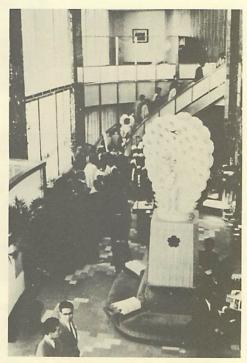
東京本部,東京支店 昭和33年 新築移転

昭和28年 昭和31年

昭和33年

喜びの万才三唱





新東京支店の完成により, 4階に I.B.M.室が設けられ, P.C.S.統計会計機が 稼動, 平沼頭取訪米視察の 成果は今日の機械化の基礎 を作り, 大きく前進した



東京支店営業室 客待ち中央に桐 江作,伽陵頻迦 の時計台が輝く 現在は鳥居文庫 に保存



昭和35年6月,埼玉銀行役員,行員,物故者198名の慰霊法要施行,導師,川越 喜多院,塩入亮忠大僧正,焼香する施主,平沼頭取



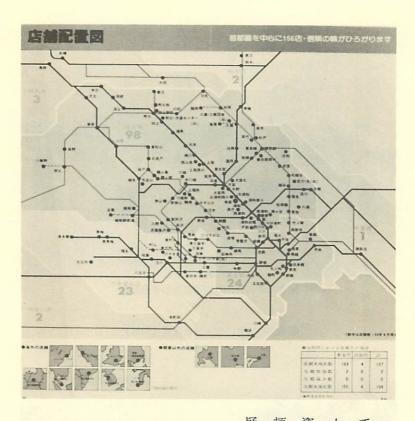
珍らしい扇 形の店舗, 新宿支店。



三笠宮妃殿下をお迎えして (本店)



社会福祉,文教 施設への寄附金 伝達式,受ける は栗原埼玉県知 事,昭和36年。



頼される埼玉銀行たるを信じて 資金面から精進され、 疑いはない。 土、民族の安定と生活向上に、 千名の行員、一丸とな 総預金三兆数千億円、 世間 一万 T に信

玉



昭和27年10月, 行内運動会の平沼頭取

昭和35年11月, ゴルフ始球式 (岡部)



へ黒天と埼玉銀行

店からの要望も強く遂に全店に彫って配付した。 る銀行の守り本尊として大黒天を彫ってもらいたいと頼まれ、彫刻したのがきっかけで、各支 私が埼玉銀行頭取に就任して間もなく、 当時所沢の神田支店長から、皆様の財宝をお預りす

その他取引先や、 神社等からも懇望されて差上げたものを合せると、 四百数十体になってい

ると思う。

埼 ものにしたのも、 玉 銀行が、 地方銀行中第一位、 この大黒天の御利益を無視することは出来ない。 機械化、 海外コルレス開始 へと歩一歩その業績をすばらし

お 得意様と支店に結成されている大黒会を通じて、大黒天の信仰のもとに、 銀行と深い血の



俵の上にのり、打出の小槌を持って、人間的な相貌、財宝守護の大黒天、木彫、総高 約40cm

通った間柄となったことと思う。

処が、これら大黒天の御本尊はと聞かれ、 いそい 白雲

で台座共で一・六米の開運大黒天を謹刻して、

一埼友会の

志村に金門金属工業所を設立し、 するとすぐ新技術を導入して板橋 質などを製造した。 後、軍需会社に指定され魚情、機

の長きに耳り、銀行にお世話にな 玉銀行となってから通算して45年 当時は武州銀行であったが、埼

山に奉安した次第である。

上一つだけ埼友会の発足の経緯を をお祈りすると共に、長い間のご 明らかにしておきたい。 い出は数限りないが、紙面の都合 厚情に対し心から感謝申上げる。 30周年記念に当り銀行のご発展 長い間の銀行との関係にある思

話にもなるという超旨で、銀行を で矢島支店長を囲み、期せずして の時、招待された会社の社長の間 る会を作ってはどうか』という意 中心とし各社の横の連絡を密にす 開き板橋支店を応援すると共に世 築の披露パーティが催された。そ 『今後取引先の会社が時々会合を 昭和28年12月5日に板橋支店増

昭和4年7月私は独乙より帰国 発足について

改称した。 たので、板橋は「板橋埼友会」と 会が「埼友会」という名称を用い などたくさん結成され、その連合

を簡単にご紹介しておきたい。 〇〇名、盛んに活躍していること 許りに板橋崎友会は現在会員 以上が埼友会の発端であること

を附記しておく。 (如金門製作所社長



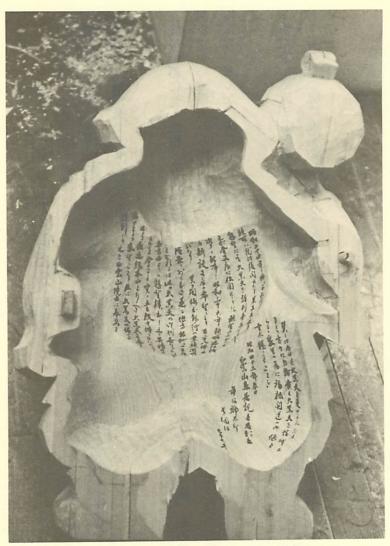
名し4社の会員を以て発足した。 決め、公の名称を「埼友会」と命 第一回の世話人会を聞いて会則を 見が出て満場一致で可決され、 位が出席され祝詞を賜り頗る盛会 重役、矢島支店長および代理の各 会を開き、銀行側より平沿頭取外 ちに13名の世話人を選び12月8日 その後各支店に埼友会、大黒会 翌昭和29年1月16日に第一回総





開運大黒天, 木彫 総高 1.6m 昭和 43年作

昭和45年春大黒 天祭,白雲山,鳥 居観音



開運大黒天の胎内,桐江はこれまで四百数十体の大黒天を彫刻した。 これらの大黒天の本尊として,この開運大黒天を謹刻し,その胎内に縁起を記載 し,写経その他奉納の書等入れる。

辰年生れの新年初詣り

昭 和二十八年、辰歳の正月、日本航空が辰年生れの学者、実業家、文人、俳優等、七十余名

を招待し、

飛行機で伊勢神宮、

出雲大社等空から謹んで初詣をした。

得たら、どんなに楽しいものだろうと考えた。 界を空か 戦 後の悪化せる世相、名利を追い金銭の奴隷となっている人間が持つ貪、瞋、癡の三毒。 ら、極楽から眺めた様な気持がしてミザ ル、 キカザル、 イワザルの三猿の心境になり の下

ナーととれば多しいものたとうと考えた。

しでもこの心境に近ずきたいものである。 帰宅後、 早速三猿を彫刻した。 解脱の心境になる事は私共凡人には夢遠きことであろうが少



三猿, 総高 0.3m



昭和29年,第59回伊勢神宮遷宮式の平沼弥太郎

伊勢神宮 • 第五十九回御遷宮式

伊 勢神宮は、二十年目毎に御遷宮式が挙行される。 戦争のため三年おくれて、昭和二十九年

に第五

十九回の遷宮式が行われた。

常な協力により、埼玉県の二千七百余万円の割当をはるかに突破した。 私はこの時、埼玉県の御遷宮奉讃会長をつとめ、県民の皆様から、 自主的に奉納願って、 非

お蔭様で伊勢神宮の評議員会の議長をつとめさせて頂いた。

ので、篝火と松明の行列で、 その遷宮式当日は、大野伊右衛門氏と私が勅任官待遇で参列の光栄に浴し、 二千何百年の昔をそのままの仕来たりによる幽玄な儀式で、 真夜中の行事な 心引

きしまる感激に浴した。

Ŧī. 間を要する式典で、 その間小用に立つ事も出来ず、 前日から水をのまず、 餅を食す等

注意をうけた。

悪 て参列し、拝殿 いと医師 私はその時の感激を忘れ得ず、名栗村の星宮神社の元旦の式には拝領した衣冠束帯を着用し に注意されたため、数年で中止したのは残念である。 から伊勢神宮を遥拝したが、何しろ吹きさらしの社殿の暁の寒さは、高 血圧 K

は 本 神宮にご奉告参拝される折りご不快な事が 人にも この三日後伊勢神宮の評議員会に出席した。 先年、 いる位 皇居 の年 いであるが、昭和四十五年、五十年ぶりに、欧洲をご訪問遊ばされる為に、 一賀参拝 の折り、パチンコ玉を、 おありではないかと日本人一同心配申上げたが、 天皇、 皇后両陛下に向って投げた馬 鹿者 伊勢 が日 私

姿に接した。 院 や緑化推 出席者五百名の方々が皆、 進委員会でご懇意を願 神宮の二の門内の玉砂利の庭で、手が足のくるぶし迄 ってい る大宮司 をおつとめ 0 徳川宗敬 先生や 皆 様 の英



衣冠束帯にて,名栗村星宮神社,昭和45年,元旦

二の門内, 儀式





徳川宗敬大宮司と伊勢神宮評議 員会,宿舎にて



大宮, 氷川神社にて, 皇太子殿下に御挨拶申上ぐる平沼弥太郎

が、 + 根用 に大変である。 本、 昭 何し の茅三万余束、 和 そ 四 一八年 の他何百種 ろ御遷宮に は、 刀六十二 第六十 は、 の調度品等、 檜の良材、 振 回の御遷宮式典が行われ り、 錦 全部新調 の旗 三万八千余石、 0 な 5 0 < で、 ホ コ

実

六

屋

た

とどく程の最敬礼で参拝し、まったく心が打たれた。

唱

にも、

して両陛下のご無事

のご

帰

国

を

お

祈

b

申

大々神楽の、

のりとにも、

また評議員会の

君ヶ代合

上ぐる真剣な姿は、

伊勢神宮の宗教代表な

れ

ば

ح

そ

しみじみ痛感した。



大宮, 氷川護国神社大祭に於ける平沼弥太郎

玄な神域を覆っており、

あたかも八百萬の神々が、

何十万とも知れぬ沢山の虫の音楽が、遠く近く、

网络

であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。

何

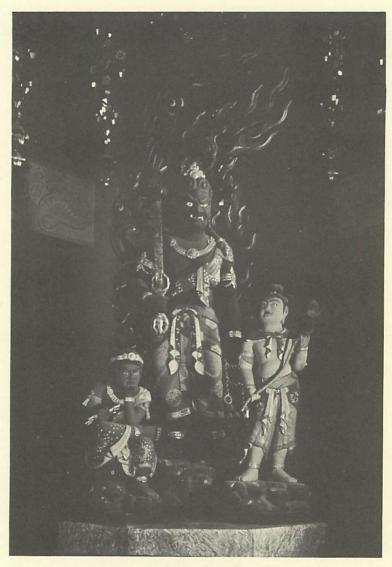
0

私はこの時、宇治橋近くの旅館に泊ったので、夜、境

内を散歩した。

ないか

心が引きしまる思



不動明王, 木彫, 総高 3 m, 昭和45年作, 左は制吒迦童子 (1.3 m) 右は矜羯羅童子 (0.9 m)

武 鉄 事 件

た。 て鉄道を敷いてはどうか。 昭 和三十五年頃、 関東は関西に比し私鉄がすくないので地方開発の為、新宿から秩父にかけ 今、鉄道工事の技術が進歩したので簡単に出来るという提案があっ

これ は地域の発展、 繁栄に寄与することで、 埼玉銀行の地盤開拓に非常に効果がある。

処 から これには猛烈な反対があり、 台湾製糖、 昭和電工、 武鉄の三大疑獄として世間を騒がせ

た事になった。

道陣と弥次馬で大騒ぎ、 昭 和三十六年九月十二日、早朝 家宅捜索を始めた。 起されて刑事が十数名、 身のまわりを警護し、 家の周囲は報

私は報道陣の目をさけて、裏隣の通用口から抜けて巣鴨の刑務所に連れて行かれた。

此の日、名栗も家宅捜索を受けた。

もあったのである。 それは埼玉銀行から金が相当引出されて政財界に贈賄したとの疑いであり、次の色々の理由

不良債権 な点で制限を受けて居ったが、 その一つは、 山積、 合併派閥の闘争から大蔵省管理銀行として烙印を押されて居り、 昭和二十四年私が頭取に就任した時、 私は当局の圧迫を押しのけて、 当時 の埼玉銀行は頭取のなり手がなく、 ドンドン進み、 努力をした。 爾来非常に色

埼玉銀行が非常 に伸 びた。 私は市中銀行にしようとして大阪、名古屋、 東京と、 地盤を拡大

するべく積極的努力を加えた。

は、地方銀行に押えるべく非常な圧迫を加えたが、昭和三十三年準直轄銀行となり、

銀と地銀の両性格を持ったが、この積極拡大に対し圧迫が加えられた。

接近したので、地銀埼玉なにするものぞと、都市銀行より猛烈な圧迫を受けた。 その二、都市銀行は十二行結束固く、地方銀行との大きい差をつけて居ったが、埼玉銀行が

とする色々の理由で検事局が動き出したのである。 その三、私が埼玉銀行の頭取になるや、千四百余の不良債権を大胆に競売等の整理をしたの 債務者 の猛烈な反対を受けた。等各方面 の私に対する批判は激しく、頭取をやめさせよう

これ < 然 が贈賄の疑惑のもととなったのである。 懇願 により、 鉄道予定路線敷地 内 田 桂 郎郎 の買収を予め、 (私の女婿) しておく必要があり、 を主任として約十五億の地所の買収を行ったので、 滝 島 総 一郎 K は そ 0 力がな

私が収監された時、 内田桂一郎、 菊池寛実、 永田雅一、丹沢善利、 滝島総一郎、 外数氏が収

監された。

巣鴨 に連行されて直ちに丸裸にされ、 薬も全部取り上げられ、獄衣を着せられて、 三畳位の

部屋に投獄された。

あ 0 調べ室に行くのに、 0 た。 て総べて地獄の様な有様で、 三ヵ所位のドアの鍵を開けて行くという、何とも言えぬいやな気持ちで 廊下にある鏡も顔が曲って写り、気味の悪いもので、

進者 0 法師 調べを受けると云う、 調 の中 霊骨塔 も毎 K 銀 0 日一回ずつあっ 行 建設費の 0 取引者 問 石が相当 大変な事件になった。 題に たが、 替 あっ り、 始 8 たので、 有 は贈収賄 志が塔建立委員会を組織して努力して下さったのが、寄 これが私の収賄罪に見做されて、 の調べだったが何もないので、 寄進者も皆検事 今度は玄奘三蔵

然しこれは三蔵塔建立資金に寄贈して下さったもので、 平沼個人ではない事が証明された。

処が 滝島総一 郎が楢橋運輸大臣に三百万円贈呈したという事で、 楢橋氏は大臣をやめざるを

得なくなった。

私は問題がないので、 検事とは銀行経営の話等して時間をつぶした。

解されて、相当厳しくやられた様で気の毒であった。 入獄中は各方面よりの同情の色々の差入れで、狭い部屋に山と積まれた。内田桂一郎氏は誤

そして一ヶ月で一同開放され、 以後裁判が始まり、五年間かかった。

弁護士は十五人位も居り、法廷に出されて裁判の時には、 検事と弁護士の論争を、只だまっ

て聞いて居るだけだった。

総べての問題が私が原因で、例えば織物の縦糸であり、 色々の人々が横糸となり、 かもし出

した色模様であるとて青天白日の身となった。

み 仏像彫刻に専念する事が出来、 昭 和三十六年十一月、 頭取をやめることが出来たので、体に暇が出来、彫刻家を三人位 救世大観音始め、 玉華門・地球愛護平和観音・鐘楼等、 皆完 い頼

成した。

50 私 L の一生の中でこの事件は尊いものであった。 銀行や社会の仕事をして多忙にお いまわされて居れば、 鳥居観音は完成しなかったと思

申訳なく私の尤も苦しみとした所である。 裁判中、 塔建立の協力者二十数名が証人に呼び出され、 猛烈な取調べを受けられた事が



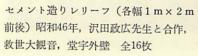
救世大観音,中央,総高(台座共)33m 脇仏総高(台座共)22m 堂宇,床面積 197平方m,昭和46年11月落慶



救世大観音落慶式 右,前列は曹洞宗管長岩本勝俊禅師



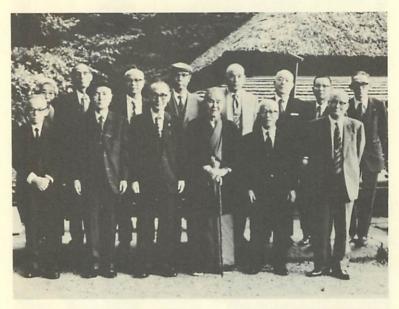
増長天, 南の守護神





経営者 頭取 平沼弥太郎

事業家とし、政治、宗教 また芸術家としての人間 平沼を語る





文化勲章受賞 芸術院会員,沢田政広先生作,十一面観音を背に,頭取平沼弥太郎,昭和30年

1 本日は 『平沼先生をこきお ろす座 一談会」

と云う事で、 し、誉め る処は誉め、 気の 趣くままに先生をこきおろ 事業家として政治、

ざっくばらんに台上に乗せたいと思います。

教また偉大なる芸術家としての平沼先生を、

(H) とにかく猛烈な頭取でありました。 昔から、 先生には追い使われました。

今の金額に換算して一億円以上でしょう。 あ 当 りまし 時 三万円 た。 或る有名な人名 位の偽造手形を摑まされた事が の手形ですが、

平 沼 !頭取はすこしも小言を云わなかった。

取以下重役をビシビシ叱った。

こう云う人なれば仕事をしても張合が

と感じた。

忘れるべからず。 債権 私 は本部 は やって良くなった。埼玉銀行はこの人を あの人が居られたからこそ、 は知りませ んが、 合併当時 ガ の不 チ + 良 ガ

チ

であり乍ら下ッ端は は皆無でしょう。 の不良債権 くる。 頭取室へ日本刀をひっこ抜いて乗り込んで ピストルをつきつけて入ってくる。こ に対して一人でこれを受ける重役 いませんよ。こんな強 可愛がった。 同時 K 副 い人 頭



平沼頭取外重役並びに夫人, (秋元副頭取 館林邸)

感化を受けました。

(K)

若

い時

から御世話様になり、

御教え頂き

頃を憶いおこします。 蘇生しない 事 散漫な取附を受け日毎 ある毎に御出馬を願 と云う事で、 う訳 に預金残高 飯能銀行の昭 で、 又願 から 和 滅 わ 八年 ね ば

くという毎日でした。

出馬され美事

ずにたち

う形で、見習う点であろうと思います。いと思う事をビシビシ出来る人、独裁的な面いと思う事をビシビシ出来る人、独裁的な面



昭和26年, 所沢支店新店舗落成式, 前列中央平沼頭取

復員して所沢支店に勤務

い

たしまし

た、

新

n

我々

は

如何様

K

7

も出来ない、

うべき処である。

備

0

ような生れ乍らにして、

王者

の器であら

直

る偉い人です。今でも頭に浮びます。

乱

世

0

英雄と云いまし

ょうか。

国

志

0

操

劉

た。 天像を彫刻 店 い う事 舗 ح 0 が出来た時です。さてこれ 埼 玉 して頂 銀 それでは平 行第 いたらと云う事 号の 沼 大黒天の 頭 取 K 守 か 霊 K 護 5 なり 験 神 如 は、 0 何 まし 大黒 K

田支店長の努力精進と共に、預金のいちじるこの埼玉銀行第一号の大黒天の霊験は、神

位となりました。



笑いの中に福 の神とて あがめられる 大黒天

ります。 りましょう。 きました。一 あら、 を御教え頂いたものと思います。 三十年の春、 春毎に新たなり』 こんな平沼頭取であります。 早速表装して座右の銘として居 生懸命精進しろよという事であ 私が粗野で世事に慣れ 0 墨痕鮮かな書 『年 ない 々 を頂 春 K 面

か幾度も云われ、又何回も叱られました。%と十三%の増加の開きは五年先でどうなる

私が、

貯蓄推

進課

長に

ts

2

た

時、

預金十二

基礎を造ったもので、先見性と申しますかこか敬服の至りでありましたが、これが埼銀の

当時は今が今であり、

五年先とは、

い

ささ

计数日盛 自己資本(広義)、利益金、有価証券、の推移 100.000 50,000 196104871 1 14(01.800) 10,000 5,000 1 (6 9 F) 1,000 500 41010 100 631 50 10 3.310 28 m 3 10 38 m 3 20 23 33

えられその偉さが今に思い出されるのです。 の資金量 当時 は金融機関でこぞって貯金箱をお客様 は自由化に なっ た時物を云うぞと教

> に配布して居りました。 この原型は平沼頭取自 埼 銀で かっ らの は 彫刻によ 打 出 の小 る 槌

の真摯な御努力が今日の大埼玉銀行の発

もので、諸外国にもその例をみないものです。

展 につながっていると思うと感無量の至りで

あります。

のをお前にやると、 今でも家宝として大切に

当初 の原型はやや大きくて貯金箱製作の経

週間 ら、 費 面 その時 ほどし か ら、 て頭取室に もう少しちいさいものと具申した はだまって聞いて居られたが、 呼ば n これではどう

のでなく、今でもこれを想いおこすと申訳な を頂いた。 この 原型が 一晩や二晩で出来 い打出 0 るも 小槌

カン

こぶりの木

の香

も新らし

く

冷汗が出ます。

三十六年一月末、預金残高二千一百三十二億 (H) 祭って居ります。 昭和三十六年の日記の抜萃を読みます。

と申上げたら、それ程の所望なら前の大きい 貯 金箱も出来上りこの原型をぜひ頂きたい

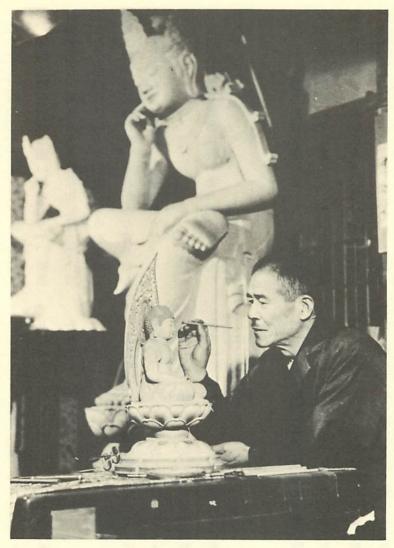
様である。 ある観世音菩薩像の彫刻に専念せられていた を成して居られ、 と号し、 この大黒天について、 趣味の 彫 その 刻 に親 頃 平沼 は L ま 深 れ、 頭 い 信 取 仰 す は で 0 対 に 桐 象で 江 家

他行におそら

黒天縁記与起運動が始まった、

く例をみない名称で十日間展開された。

円でありました。三月に入り春の甲子祭り大



釈迦牟尼仏,多忙の銀行頭取,外数多くの公職をもって,帰宅夕食の後ただ一人ノミを取る平沼頭取。昭和29年ビルマに於いて開催された 第3回世界仏教徒会議に日本からの贈りものとして,平和のバゴダに永久に安置された。

たまたま、昭和二十六年所沢支店が新築さ

れ、神田芳雄支店長の願い出の通りで、 新築

られた。

された平沼頭取は 披露の当日、 可成り大きな荷物を持って出席 『ホラ約束のものを持って

く出来栄えも見事な大黒天像であった。

来たよ』と言われたが、それが木の香も新し

支店長の歓喜感激は言いあらわせないもの

から あっ た。

た次第、そこは抜け目のない頭取のこととて、 取もびっくりされ悲鳴を挙げる仕儀と相成っ かい ら注文殺到といった事で、 かくて、 忽ち銀行全店に拡がり、 これ には平沼頭 各支店長

> よしそれなら業績の順に贈ろうと云う事 り、多忙の日時を割いて一体一体と彫り上げ にな

贈呈が行われたのである。行く行くは全店 そして支店長会議の席上などで、成績順に しか し店舗数は当時

既でに百店に近く、 の御考えの様であった。 た のである。 これが達成には数年を要

全く頭の下がる思いを深く致しました。 言うまでもない。 と労力はまことに甚大なものが お 好きな彫刻の道とは云え、 結局 は 銀行 0 その 為 あったことは の御精進で 間 0 時 間

ながりを持ち、 斯くして、大黒天と埼銀とは密接不離のつ 各店の後援団体にも大黒会、

七 福会等の名称がもちいられ今日に及 んで居

は 銀行業績の発展向上に偉大の貢献を致しま この様な次第で桐江刻される処の大黒天像

た。

にしました。

れた。 と頻繁に行われ容易ではなかった。 三月二十日、第一回朝メシ会が始めて行わ 諸運動推進の為、 遠距離もなんのその

四月に入って、三月末各行の預金残高が判

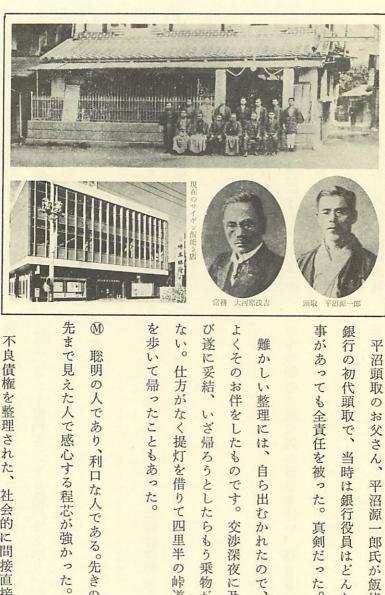
来るものではないと感じました。

の時 二千二百八十億円と二十五億円を上 明した。埼玉銀行二千三百五億円、 2 たと記憶して居ります。 の平沼頭 取 の機嫌たるや最上のものが 神戸銀行 口 り、 あ

(K) 四十幾年の銀行生活は、平沼頭取と行動 武蔵野銀行合併以前の飯能銀行の時 を共 か

5

の中 とえれば跡をつけて行く事 て天に昇ると云われます。 抽象的でありますが、竜は実在しない干支 0 動物。 風を興し雷雨を伴 平沼頭 は大変な事 V 取 渦 を を巻い っで、 竜 にた 出



い

仕方が

なく提灯を借りて四里半

の峠

道

いざ帰ろうとしたらもう乗物

難

か

L い

整理には、

自ら出むかれたので、

交渉深夜に及

平沼頭取のお父さん、平沼源

郎氏が飯能

当時は銀行役員はどんな

真剣だった。

を歩い 聡明の人であり、利口な人である。先きの て帰ったこともあった。

不良債権を整理された、 社会的に間接直 接

から

に攻撃されたと思うが一歩も引か なかった。

L 生は飯能銀行頭取になられました。 い 時で、 預金は延び ない、 こんな時代 非常 であ に苦

初心を断行された。

尋常の人では出来ない

りました。

先生の偉さはそこにあると思う。

十名位 株主総会の前に、上の方から年とった人を い書いて出せと命令される。頭取はこ

れを、この人はあと何年しかない

重

役

候

補

出向者にと決めて居られた。 行員の今後 への慎重 の御 秋霜烈日の 配 慮、 厳

れたと感じます。 半面すばらしい温情の良さを持って居ら

> 県支金庫がほしいと具申し『持ってくれ ば

ろ』との事、 良いだろう、 どの位の県 県出納課 へ、又本金庫を持 費 収 納 カン 調べてみ

く支金庫が坂戸支店にもってこられた。 いる武州銀行へ幾度もお伴しました。まもな と思いつくときっと出来る迄やり抜 く頭

ありました。

(H) 私しが坂戸支店に居りました時、 平沼先

頭取さんこれをなおしましょうと申上げたら 大震災で、 店が傾き店内に ヒビが 入った。



昭和18年6月埼玉銀行合併調印後の記念撮影, 中央列右から三人目 平沼弥太郎

巡回、

だし

L

2

先頭

K

た

て支店を

良

い

で

は

ts

い

か

0

回

T

ts

お

世

ば

云

0 た

お

人

柄

0

頭

取

でし

た。

預

金を取

2

お

小言

「を喰っ

た事

でをすっ

か

り忘れ

てしまうと

抜け

K

お見

聞き及んで居ります。

えに

なる。

まず

小

馳走になり で わ お 夕 叱 れ 食を る。 りを言 御 後

> 当を降格という事で、 分について禀議しました処却下され た。その人は再び復活して活躍 ある店で不祥事件が起りました。 温情 の御承認を頂きま してい 当事 免

職

至

者

処

た。 訓 は と主張せ 充分、 戒が行わ 然し重役も処分を受けるべきが当 注意して採用 5 れ れ たり、 た り、 私共困 人事課として行員採品 すべ きであると厳 2 た事 \$ ありま 然で あ L 用 る 時 い

ると

は平沼頭取の御承認を頂かねばと、秋元副頭 な管理下にあった時、夏期手当についても、 た。交渉夜を徹して遂に翌朝に至り、この上 た。交渉夜を徹して遂に翌朝に至り、この上



昭和26年4月, 歌舞伎座に於ける七福定期預金観 劇招待会に挨拶する平沼頭取

意見を上申した処、平沼頭取

は

秋元副頭取より経過を説明し

取の

お供をして、

御

訪

ねしまし

た。

頭

取は早

朝

VC

か

か

わ

らず特

受けていて下さいました。

組合の喜びを聞いた時、ホットした次第です。従業員

分苦労された平沼頭取の、おかげであると県下四行が埼玉銀行を作り今日の発展、ず

い

云われ、

承諾されました。

『御苦労でした、

結構です』

2

思います。

① 当時の地方銀行から、今、都市銀行とし

沼頭取が作ったと考えます。

て隆

々

の発

展をみて居ります。

その礎石

は平

か 頭 取 王子に埼 も今の種貸出と同じ様に実施しまし 八王子 0 積 に埼 極 銀 的 ありと云わせ 玉銀行を作 な庇護のもと、 られた時、 なければならない 商手禀議 織物 た。 は あた の町

念願である大阪支店の橋頭堡であったこと、ったろうと思われます。名古屋支店の開設がったろうと思われます。名古屋支店の開設が

た事など思い出されます。

えず批判の声を聞かれていた、こういう点立ンであったがそこには下部の意見を聞く、絶全に徹底せよ』と強く言われました。ワンマ

派だと思います。

ら事を実行しました。 室の り、 という人柄であり、この半面 端的 発言で 本日 に申 は あれば、そうそうにして帰ると云 頭取 上げ、 の胃 百万人たりとも我れ行か 0 調子が悪 一神経質 い とい 0 ら秘 処も ん あ

云う処であります。
おかとしを愛された事、パチンコと頭取といるのとしを愛された事、パチンコと頭取とのであります。

某重役が店に来て言わく『埼 M 頭 い 取 手を打つ。 と話 私は 0 中 られ 忍に居住しております。 L して帰ら 先手、 る事であろう。 れた 先手とやる、 事 がありました。 恐 銀は n これ 足利銀行の ح 入 の様 b は 平沼 ま に偉 L

た。

呼 (S) L びする方が い 年 現 月 在 を で は ふさわし 顧 元 す 頭 る 取 に、 と申 P 上げるべ は b 平 沼頭取と御 きですが 懐

> たりに 統一、 見事な整理、 平 り得た名栗水電、 和 平沼頭取は、 の世では厳し過ぎる様です。 戦後の不良債権の強引とまで言 した合併人事の軋轢を納めら 現今の都銀埼玉の基礎を築か 非常の時、 飯能銀行、 乱世の指導 又私共が 噂 n K より知 者 わ ま 和 n 0 n た 合 あ

取 全力投球 平 K 沼 至 2 頭 て実現し され、 取 0 夢 遂 は に 埼 た次第です。 秋 銀 元 0 都 頭 取 銀昇 を 経 格 て、 で、 ح 長 島 0 頭 為

成果を挙げられたと、今更乍ら平沼頭取の勇殆んど孤立無援の御立場で、よくこれ程の

34		33	32	31	
9	12 11	10 9 6 3	10 9 8	11 3	12
斯維珀金(住宅・育児積立定期預金、誕生・結婚配念定期預金)以投開始	 例立・五周年記念行員家接퇪安大会開催 例立・五周年記念視賞会開催 日立・五周年記念視賞会開催	資本金三十億円に倍額増資 テレファックスを補和末部に、テレックスを補和東京両本部に設置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	資本金十五億円に増費 1 二・二六事件。日曜有号ラック、「こと権能」生産力拡充立立。日私伊政共協定。

気と剛直さ、先見性と英知に頭が下る許りで

曹洞宗沢木興道老師の高弟、文学博士酒井

得元老師が講演の節『人間はあく迄動物である。生きてゆくには食って糞をし 小 便 を する。幾ら崇高な心だ、霊性ときれいごとを並べても、それだけではすまされない。大悟徹べても、それだけではすまされない。 大悟徹

大層気を使われる優しさ、それに御一家の皆の最大ではないかと考えられる。強気の反面平沼頭取が人間臭く、あくの強い処が魅力

様 にお近づきさせて頂き、 大変仕合せであっ

お若くして逝かれたことが痛恨事であり、 たと感謝 して居ります。 ただ御長男邦彦様が 邦

彦様 の御長男が結婚された時、 盛大な結婚披

露宴の会場を辞去するに際し、

出

口に立って

をして居られた。

0 挨拶されて居られた平沼頭取御夫妻、 御顔を拝し た処、 御心中を察し、 邦彦様を 花子様

偲び 悲喜交々の涙を禁じ得ませんでした。

で、 平 沼 頭 取 0 銀行発 重役全員 展 K つい T の意欲 は 驚く

程

あ

る

日、

帰宅され

ても引

続き

事 5 お か を申 独 れ、 b T L 上げ 余り遅くなっては皆様 執務され た 5 始 夜九 8 7 時 時 間 近 < 0 に気の 経 な 0 2 た 0 毒だと 0 VE 気 で 食 から

た

\$

のでありまし

た。

食事をされず御帰 りになりまし た。

居られ ぎ、 大阪支店が出来 平 沼頭取 た。 休日の は一万田日 夜に訪問され、 る頃、 ある日 銀総裁の 曜 真摯の 処に 日夜 九時過 行 つって

最初 の支店長会議月曜日でありまし た。 御

5 T B ん 自分で三十頁位 ま い イプしまし ts L 有賀さんと総動員して た い二人、 が、 た。 あ 0 幾度も修 0 何 原 資 分正 稿 料 は を 頭取 正 規 頭 作ら L 0 取さ 御自身が作 7 及 夜 n 1 を徹 2 た。 プ を修 0 原 鈴 L 5 木 T 得 稿 n 打



頭取室にて

る頭取はおそらくない

室でサツマイモをたべ

す。買ってくる。

頭取

いもの屋台が通

h

重

夜丸の内に石焼

であろう。

池袋で、カバンを運転手に預け、パチンコ

行かず、パチンコをせず江古田の家まで歩い支店で、小使さんからお金を借りるわけにも屋に入った。お金を持っていなかった。池袋

ん等々と会議を持たれ、秋元副頭取は当日予仕事熱心で、いつぞや急に副頭取・常務さ

定の知人の結婚式に会場よりの催促の電話に

居ります。たという話しも聞いて

健康上オサツが大好ります。

ら止むを得ず、 欠席の旨連絡された記憶があ

も中座を申上げかねて、 相当時間を過ぎてか

から 優秀であるから、 副 頭取を叱られる、 小言を言っ 後であんな事を言った たのだと述

される頭取でありました。



昭和38年正月, 秘書課女子行員訪問, 千手観音 製作のアトリエにて記念撮影

話した処、『どうして俺

をつけて深谷支店に

時、

緊急な用事で見当

した。 と驚 の居場所が かれ た事が 判 2 ありま た かい

平沼頭取は予告なし

事が多く、私一人の に突然支店を廻られ

武 石さんが来てからは、頭取に内密に、そっ

と行 先より出来る限り連絡して貰いました。

世 な これ いい は支店に気を使わせず、手数をかけさ 平常の支店の情況把握の御配慮から

でした。

ど引用されないことも度々でした。

され、 には、 では は 必ず、 銀行も彫刻も始めからその道 な 通り一辺の資料には納得されず、 唯感嘆します。 い 調査、 0 に、 証券、 人 が想像も 業務等々の資料を要求 行事又得意先訪 5 か 75 に入られ い 創 問 意 殆 等 工夫 た訳 K

閉鎖 され 萩出 た 事 預 御就 \$ 金 張 から た中に、 放所にお 任当 あっ 已むを得ないと厳しい 勧 誘 た。 で、 一時、 لالك 供 夜提灯 成 正式に全店を廻られ しまし 績が は 旧 あが 飯能 た。 をつけて らな 銀 全行員を集め お話でありまし 行 妻坂 であ い と出 峠 た 2 張所 折、 を越 た。 訓 之 私 高 示 0

は

今 る行員 石 りきたりの構図に満足され 白、 銀行 田宗国さんを御引き合せ 石 はと言 の風呂敷をデパートに注文する時、 田 3 わ 2 が、 れた 平沼頭取との御 ので、 当 ず、 L た 時 丸 誰 0 から か 0 絵 縁 内 の源 何 支 心 だ 店 0 あ かい あ で 0

は

ない

かと存じます。



昭和32年5月16日,首相官邸にて 藍綬褒章受賞,井出農林大臣と平沼頭取夫妻



雲仙岳の霧氷 (平沼弥太郎撮影)

ひといき,九州旅行 の平沼頭取夫妻 普賢岳にて昭和28年







正月早々整もつ 平沼頭取 昭和26年

銀行の建築でも、建築士顔負けの構想をさ

るでしょうと申上げたら『いや色々注意してれ、大栄建築の今津常務に御困りのこともあ

下さるので張り合いがあります』と申されま

した。

平櫛田中先生は、彫刻用の大きな原木を庭 平櫛田中先生は、彫刻用の大きな原木を庭

された由承わりました。

平沼頭取はいつまでも、然し御無理をなさ 平沼頭取はいつまでも、然し御無理をなさ

平沼頭取御就任六ヵ月後、昭和二十

四

年

九月、 拝見しました。 支店長拝命挨拶で 美男子であると思 始 めて 頭 い 取 ま 0 L お た。 顔 を

出され、よい長寿法であられる様祈念致しまどうか、新構想、新計画をつぎつぎと打ち

が

ある」と。

言

われた事がありました『玄人の私が、

平沼

彫刻家の沢田政広先生が、私にこんな事を

頭取には及ばない事がある、

また学ぶべき面

当時不祥事件、不良債権続発の時であった。

ł

す。



涼しそうなビルマ服を着る、大そうよく似合いますと現地人にほめられる昭和29年 12月、ラングーンにて

致しませ K 口 頭 答 取 白く い ん たしました 『悪 お誓い致しました。こんな時代 い事 はしてくれるなり 『悪いことだけは絶対 と即座 K

でありました。

土地に追貸し、 ありまし う点で助けて い出せば整理出来る代物でした。 た。 処が 頂いた。二千万円 担保にとって不法占拠者 百六十坪 余の都 0 内 コ ゲ 目 抜 附 を追 きの きが

た事多大であり、頼りになる頭取であること すら出来ない、と云う噂が流れて居りまし 事すら出来ない、と云う噂が流れて居りまし

を、

例を申上げます。

られました。頭取室に言上に行ったのです。した。浦和から小河原さん、秋元副頭取も居ちょうど頭取がビルマ御出発の時でありま

T ることになるが直訴上申しました。こう云 時 も結論が は、 課、 なか 部、 なか 常務とひとつ 出ませ ん。 の申 組織を無視 請 につ

許可を頂きました。
とお論して頂き、二千万円の融資のしやれ』と結論して頂き、二千万円の融資のした。

火中の栗を拾う事なし、下手にいくとどう

頼りになる頭取でありました。一年後に立派な整理解決をみました。誠に

い出があります。 道頓堀で、こんなに景品を頭取から頂いた思クダラない』と言ったら、オコラれた。大阪ハッので御座いましたか『パチンコなんて、

ら、そんな事云ったってとオコッテ帰られた。金融逼迫に入った時で、締めざるを得ない、締めるというお話しがあり、よって巡洋艦、縦艦の様に大きく廻るべきであると反対した

翌日の支店長会議では『締めねばならない

われた。こんな平沼頭取です。が摩擦をおこさない様、審査部が何にを言っが摩擦をおこさない様、審査部が何にを言っ

写真ア 1 国外膝栗毛を編集しまし シ 3 ン、 十五年ぶりに平沼頭取から呼ば ルバ E" ルマ、 ム三十 インド以後世界を廻られた 幾冊をお預りして、 た。 れてアメ 桐江

べきだと云われると、 ザ て居ります。 私は、 1 ン の原則を、 自分流 平沼先生には参ります。絵、 のデザ 基本を度外視して斯くある 当時抵抗がありますが 1 ナーで あると自負し デ

二回三回と繰返すとすばらしい。

卓越した御

平沼頭取にして断行し得たと云わざるを得な

い

師匠さんであると思います。

頭取 良債権 す。 の頭 年頃の埼玉銀行の姿ではなかったかと思いま ح 永田 取 0 の引受け手がないと云うのが昭和二十四 機 の山積で、 の御退任、 頭取の御 に過去をふり返って見たいと思いま 管理銀行と烙印を押され、 当時預金量七十余億円、不 逝去、 その後短期間に二名

> う全国銀行中最高の健全経営にまで持ってい 総貸出の中、分類債権わずか○・二%と云

かれた手腕、 洵に果敢の経営者と云える。

取引は 他府 ぎと打ち出された。 にと還元され 県都市に支店が開設された。 ひいて県下その他中小企業、 た。 大阪、名古屋、 大企業との 横浜等、 地元優先

就 任された以上、刷新をやらねばならな い す。

孤立の中で三十数名の重役を半数に、不統 対立へ徹底してメスを入れた人、 実行の人。

然しこれらは、 平沼頭取 への羨望、 敵視、 機械化、

大衆化、

近代経営の施策がつぎつ

反動は、飯能銀行の例からし、私はこれが武又、不可には断乎として貸出さないこの政治

鉄事件と形を変えたものと思う

私はそんな事を感じます。
私はそんな事を感じます。
、埼玉、奥多摩、

近くを通ると云う事で色眼鏡で見られたものされて然るべきで、たまたま頭取さんの山の人口増第一の埼玉県で、当然鉄道は敷設

と考えます。

が、すべてを証明していると考える。沼頭取が栄ある勲三等の叙勲を受けられた事

○ あまりにも花がきれいで、子供が花をほ

室様共に御来場。

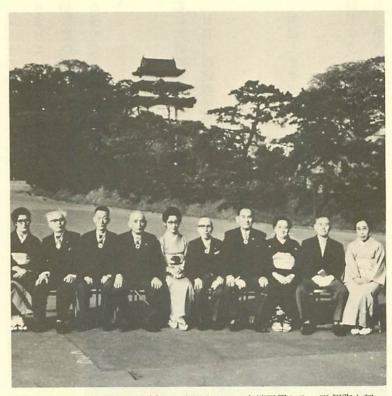
この時に

御元気に回復された平沼先生、

御令

のではないか、然し聴く人ではない。

多い。 い のであるが、 懐しいなあ! 御 無沙汰はお互様、 顔を見たくなって、 ずい分ひさしぶりの 私が 出 T 私の人生 は い け 人が な



昭和41年5月, 勲三等旭日中授章, 皇居内にて, 右端平沼とみ, 平沼弥太郎

平沼頭取を拝見する様で、全員おもわず拍手。 然しられし を言って、 銀行の十四年間、一騎当千の人々。ひどい事 コキ い』と和服姿の中に、 オロされていると考えます。

若い往時の

説明した時です。 に御就任されて二日 (I) 私が平沼頭取にお 目。 目に 再建整備 かっ か 2 た の資料を 0 は 頭

御

取

まず人間性から、 お話します。

張。 い 命令と云う訳で、早々那須につくと『い 5 かい 島田秘書課長より、早 朝 那 須 へ出

> 積まれている。これはとてもいけないと思い や急用! 云う訳で、床の間をみると、ピー 君とパチンコをやりたくてね』と スがらんと

ました。

歓

呼の内に御着席。

ました。 昼食を頂き

か、 口しました。 ノド 仕して頂くが、 冷汗で閉 を通る処



昭和28年8月, 那須, さいの河原

飲んでくれと云う事、 共 一杯やって居りました。 綜合企画 専門委員会が終って、 こんな頭取でありまし 五升持ってこられ ヒヤ マで私

> 奥様はお琴、 生懸命歌い ました。 "死んだはずだよお富さん"を 島田 さんが、 袖をひっ

私が送って、御帰宅の時、運転手は車に鍵

た。

……三百円貸してくれという訳で、貸金であ

をかけ、先生はパ

チンコとい

う事でしょうが

2 り翌朝もらいに行った。 出 なか 2 たから勘弁しろ』と云う事もあ 利息は、 と申述べる

まし

ぱる。 その時、 奥様のお名前がとみ様である。 御機嫌よく尺八をふかれ、 奥様

した。

お琴で合わして頂いた。

あの時はすくわれ

ま

は

綱、 烈日の強さ、 原 坂 平 の民謡が御 - 沼頭取 なるほど経営者と云う事 は 左手に三分の 座 います。 右に 人間

右

で

K

手

田

血

左

手に

あります。

御出発の二日前だと思います。 何 人かで、 頭 取 の御自 一宅に 伺 頭取は尺八、 2 た。 ビルマ

経費節約で、 八百万円の指導課予算を、 け

行員教育に あると具申申上げ、 千名の行員にするべきで もありません。蓄積 百万円を十年置いて四千 頭取室に参りまして、八 万円、この金利は幾らで 百万円は税金、残った四 百万円使わないとして四 使 50 では は四

> 迎の場合、再建整備が一段落し、その後 行が大きた力をもちはじめた。とくに都 況が押しよせたのである。同時に、戦後 うにか安定期を迎えようとしていた。と ていたらである。サイギンの周辺には、 シダイナミックな発展への出発点につい 公庫にかれり、都銀、地銀などの普通銀 復興の主役が演じてきた政府の復興金融 ドッジライン心実施により、どうにかこ ころい遅れるく、安定恐慌といわれる不

ずる、けずらないの時、

はずみをつけた。 況は預金、貸出を活発にし、銀行経営に 乱景気でたちまち払拭され、経済界の活 的有利な立場にあった。安定恐慌は、動 ンは、そうした強敵のなかにあって比較 充実を手がは、余力を蓄えていたサイギ の増強、資産内容の健全化、人的布陣の

追われる立場になったようなもうであっ 字的には云れほどの差はなく、迫り身が 地方銀行の首位に立ったとはいえ、数

> 目標であった。これには平沼頭取がみず の成長ということが、当時のサイギンの

地方銀行からの脱却、都市銀行なみへ

を与えた。その上、個性の強さも格別で にも気をくばり、細かなことにまで指図 から陣頭に立ったのである。小さなこと の薬務の推進にも積極的な強い手を打っ であった。店舗配置にも預金、貸出など 計算機の採用も、都銀に比較して早い方 金会計機などの市務の機械化まで、電子

システムなどの事務組織の合理化から預 めて士気の高揚に意を用いた。ユニット

のばし、首位の座を不動のものとした平 あったにせよ、サイギンの薬績を大いに ワンマンと呼ばれたり、ときに勇み足も れ以上のプラスの効果はあがっていた。 どぎつすぎるという批判もあったが、そ ぶんの企画でどしどし実行した。宜伝が は銀行でもトップを切った試みであった つくった。二十八年には映写装置をそな R誌「埼銀タイムス」を発刊した。また 行の内容、動きを新聞形式にまとめたP ろうか。こういったことを、平沼頭取はじ 穀劇映画の巡回映写をはじめたが、これ えた宜伝カーで、サイギンニュースや一 おなじころ映画「サイギンニュース」も



昭和25年7月、返子寮での第1回職海講習会、朝比奈宗源師の 講話。4行間の行員の意志疎通、融和をねらった平沼頭取苦心 の案である



居られた、教えられます。

修にすごい関心を持っ

T

教

育指導

に、

部下

0

研

お

アメションアルバムと、 埼銀タイムス(右)

韶の実行力は買われるべきであった。



二十六年にはタブロイド判四頁で、銀

見性、 経 営 後 者 は は 反省と云う事 前 と後 に、 頭 で、 を持 て、 立 派 目 ts 頭 は 取 前 で K

から

頭

先 御

座

11

ま

す。

北 浦 和 と大宮 が 同 時 開 店 L た 時です。 営 業

理

0

ts 事 を 云うなと電話 で な 小 言 頂 戴、 週 間

E か たっ なる 5 0 て、 ほ 建 ど反省 築は 丸 低 0 は 内 くする、 すぐひ K 集ま 5 その分機械 れと云ら事 8 < 立派 で 化 で K って あ す

る

ると感銘を受けまし

た。

石

田さ

んが

7

x

1

3

1

7

ル

バ

4

2

云

0

た

n

ほ

い

6

は

ts

い

か

とい

5

事

が

頭

取

0

耳

に入

り、

よ

け

場

は

吹

き抜

けで

あ

り、

ح

n

を低

くし

て良

い

0

計算センターと事務の集中処理, 3年の綜合計画で16億

円の巨額の設備を投入した。

主要勘定, 為替大口支払金, 県金庫残高, 外為相場表, 総勘定元帳報告等,独自の装置を設置し,オンラインシ ステムを完成した。

か 肥 取 料 7 5 0 あ 2 7 x n ts IJ x だ 2 1) カ け た カ 1 0 と思 で 立 便 0 派 1 0 い な本を ます。 旅 便 行 0 仕 と云う、 よくぞ 様 口 時 は K 作 苦 埼 私 玉 は 0 平 T 銀 い 沼 頂 経 行

い たと思います、

ました。

胸をはって埼銀の名を高め

三年半でやることです。 ら。実施されました、三年かからなかった。 これは経営者だと思

かどうか、 機械化の綜合計画の時、機械化をするべき アンケートを取ったことがありま

す。 賛成は私 お金を出すの 一人 は経理部であるからこれで 『十一対一で 賛 成 は 君

もあります。

『俺を婦人銀行の頭取にさせろ』と云う笑話

三十六年三月、婦人銀行講座を出しました。

決定 と云う訳で、 これ には驚きました、 3

すがだと思いました。

を出したと云われますが、 当時 証券市 場、 生

不良貸出の整理について、

証券課長が

利益

た。 ことに不振、 証券会社は手持ちを売ると欠損しますの どうしようもない 時 で ありまし

翌年高騰、 式を買えと云う事で、数億しか買えなかった。 結局十一億円の利益が出ました。

なおします、『よしこの七ヶ年を期になおせ』 も決定しない。 頭取云わく 『一字なおすか』 ヶ年計

画という訳で、いくら常務会を通って

で、

わけない。平沼頭取の命令は十五億円株

才

ンラインシステムに十六億円かけて、七



昭和26年, いこいのひととき

不良資産を整理してオツリが参ります。 思

出すと色々あります。

四十億円、 い 上げる、あてにならないの噂が流れました。 埼 玉 |県の季節資金を時期になると東京が吸 日銀に日参して借だした、平沼頭

取

の先見性であります。

平沼頭取はその場で常務会決定を破棄されま けました。この受入は違法行為になると回答、 こんな事もありました。常務会で諮問を受 厳正な頭取でありました。

(H)

厳しい頭取でありました。特に経理面は

た。

細 か かった。

です。 同 ら事で。然しヒッカカッタのは一 わなかった事がある。まあよいであろうと云 地区の他銀行が整理を聞きに来た様な次第 支店開設時、融資について、 ひとつも不良を出さなかった又出 禀議がまにあ 件もなし。 せな

M とその当時、 り恨まれた『不適当なる者は取るべ 七名受け、成績悪くて七名とも落ち との平沼頭取の命令でありまし 就職難の時でありました。 良い行員ばかりの入行で、たし 支店 た。 か 今考える 長の らずり 伜 か ts から

か

2

た。

生懸命精進した。



歴史的講和会議に於け る日本代表の調印。

日米安保条約調印式, 吉田茂首相とアチソン

家

よ

り三名以上は取る

なっ

他

より取

軒

われた。

後方平沼弥太郎。

(H)

銀

行の手足、

行動範囲を拡げる為に

1 保 平 障 開 度その時 沼 か 企 7 条 頭取 画 約 X れ、 シ 調 化 を指 参議 0 ++ 3 印 ン 厖大なお土産 ンで数十 0 フラ 示、 立会など、 院議員とし 機 ン シ 械 行の米国銀 化 ス 資料 我 て出 コ 0 原 で から 席又日 動 対 は 玉 行を視っ 関 2 日 から 係課 な 1. 講 1米安全 和 1 2 会議 た。 ツ K 翻 P

鮮

0

様

K

分割統治されずにす

んだ幸運を、

か K 良 よくなっていると感じます。

つくづく話された事がありますが、実にスケ

りました。

1 ルの大きい、視界の広い、愉快な頭取であ

者はいないとよく言われます。

平沼先生は経営者である、立派である。

た。 (K) 行外為の基礎であったと考えます。 に相関して外為否決をもって頭 うんとおこられた。 山本輝夫さんが外国部長の時、余裕資金 これが今日の埼玉銀 取 室に行っ

> 日はどうも有難う御座いました。 会わない者がこうやって集まって頂いて、本 皆様から色々御話しを伺いました。何年も

の時 1 た。 その通りです。株社債等買う。金づまり 逆に皆んなが買う。その時は売り、

こういう頭取の行き方でした。

す。 祈りして、本日の座談会を終らして頂きま をつけられ、ますますの御隆昌、 御健勝 を御

どうか平沼先生、

御令室様には御身体

ににき

銀行、 会社には重役役員は居ります。 経営

続•白雲山鳥居観音

母と鳥居観音

を建てる様に言 時 あたかも、 日中事変酣で、歩兵中尉の私は出征を覚悟するや、 い残した母の言葉が思い出された。 さすが親不孝の私も観音堂

助 云う野望を起し、心の建てなおしと、仏像の研究が最も必要だと思い、 け て邪念を除くことに務め、且つ昔のすぐれた、あまたの仏像を研究しているうちに、 生前母と歩いて選定した岩窟、そして出来ることなら自分で、御本尊を彫刻してみようと か のまま戦死してあの世で母に逢ったら大変だと大急ぎで、観音堂を建てることを決心し 当時仏像彫刻の第一人者の三木宗策先生にめぐりあい、 師事して漸く、御本尊の彫刻 西国三十三札所を巡礼 仏天 0

に取り掛る勇気が出た。



母のために最初に彫った聖観世音菩薩と凡天、帝釈天



母の遺言を実現しようと最初に建てた御堂、聖観世音菩薩と凡天、帝釈天を まつり現在は恩重堂と称して父母の像を安置する。



昭和27年10月,有馬忠直師の開眼により仁王門落慶披露



不空羂索観音,木彫総高3.85m 昭和32年作(七観音の内)三眼八臂で合掌の間に宝珠を持つ。



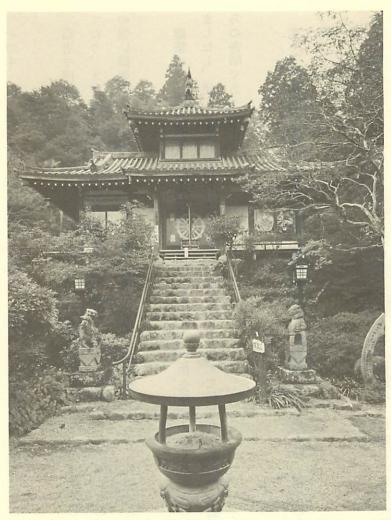
馬頭観音, 木彫, 総高 1.5m 昭和33年作(七観音の内)三面六臂で台座に馬頭を配する。



准胝観音,木彫総高 1.5m 昭和35年作(七観音の内)この観音に関する経典は少ないが、仏の母とされ桐江は母を思い出し乍ら彫った。



千手観音(部分) 木彫総高 3.9m 昭和42年作, (七観音の内) 手の数42本, 各々持物を持って, 最も複雑な工程を経て作製, 金箔仕上げ



本堂,単層入母屋造り,向拝付瓦葺き,昭和34年完成,高階瓏仙禅師により落慶 供養,昭和42年増築 (165㎡) 七観音を奉安する。飛鳥朝建築様式に現代性を取 入れる。中央ガラス扉に大法輪 (小川潮人画)四囲の窓には海山の幸,さらに四 囲壁面は野生司香雪画伯の壁画,天井は橋本明治画伯,他30人の四季の花が描か れる。

その中、 仁王門、 また水野梅暁師の遺品その他彫刻の保存の文庫を建てたりしました。

てたり、 0 強い御要望により観世音センターを造る等、 信者 や団体がまいられた時、雨でも降り出すと御迷惑をかける事が度々あるので、 また始めは食事をする処もないので炊出しをして居りましたが間に合わず、 世論の要求に、だんだん拡張をみました。 皆様 庫裡を建 か

5 まし の寄贈であっ たし、 築 には、 建築や彫刻 今津技師、 た。 の用材は平沼家の山林から切り出して使用し、 服部技 師、 彫刻は三木先生、 沢 田 任生始め多くの方々の御支援があり 境内の白雲山も平沼家か

若しこの山 林が無かったら、 白雲山鳥居観音は生れなかったと思う時、 祖先の有難さが 痛感

されます。

此

の様に多くの有縁の方々の永い間の数えきれぬ程の御援助、

御協力は言葉に言

い尽せ

なも

木彫レリーフ鳳凰。幅6m×3m 昭和42年作,一般的には天井絵が 普通であるが, 意欲的に木彫レリ ーフとした。



製作中の桐江



があり、

また観世音菩薩と亡母の御導きによるものと信じ、

誠

に感謝

0 外 あ b ませ ん。



鳥居観音マーク 木彫レリーフ, 直径1 m 昭和42年作 本堂内陣壁彫

目を楽しませます。

鳥居観音のマーク

梅暁老師手植の白雲木があり

白雲山の地蔵堂前に、

水野

日を楽しませます。





週末毎にカマ,ナタを手に山に入った平沼弥太郎

作業に入ります。 て境内に入り、 その不用の雑木を取 h

涉 を 花の咲く木や、 等になやむ都市の方々の、 うめつくして、 グリ の山として、 私 かねて信仰の場 は 日曜 雑木や蔓を伐り除い 日、 目を楽しませ白雲山を 紅葉で一 名栗に帰り、 K L たい ン (G) 杯になる、 健康 て参りました。 と念願、 & 早速鉈や鎌 V 四十 ス ッ ۴ ジ モ 年に 除く ヤ ッ (R)

そして、その間をつつじ、

椿

の様

に美しい

取はどこに居られるでしょうか』と聞くので、私もめんくらいちょっぴりいたづら気を出 とぼけて、『広い山の中ですから何処に居るか判りません』と答えると、その人は『そうです 私に逢いたいと云う人が来て、境内に居ると聞き、山に登って来て鎌をふるう私に逢い 『頭

か』と山

の奥の方へ登って行きました。

て大笑いでした。 私が山男そっくりないでたちなので判らないのです。あとで庫裡で面会してお互にあやまっ

しさを増し、目を楽しませる様になりました。 このつつじや、もみぢも長年月かけて可愛がって来たおかげで、春の花、秋の紅葉と段々美



昭和40年秋 山の手入れ



昭和44年夏 救世大観音車道 建設



救世大観音建築中 のひととき 左端 平沼弥太郎 右よ り二人目大栄建築 今津技師 昭和45 年春

戦争が勃発した翌年の昭和十七年、 水野梅暁老師が生前、 玄奘三蔵法師の霊骨塔と支那門の建立を私に依頼されました。 南京守備軍、 高森隆介大佐の率 いる高森部隊が駐屯中整地 大東亜

玉

華

門

水野梅塘鄉西京縣鄉田河縣

水野梅暁禅師の彫像,昭和24年,名古屋日泰寺での仏舎利奉安50年大法要に,玄奘三蔵法師霊骨を奉じて仏舎利と対面の行事を果した後,ついに立てず,11月21日埼玉県慈恩寺に於いてその偉大な生涯を閉じた。

沢 府 氏と水野梅暁師が使いして持帰り、 山出来る事を主張し、 あけてみると沢山の副葬品と玄奘三蔵法師の頭骨が出て来たので、 (蔣介石) に返還 したところ、 岡部長景氏と鳥居観音その他に分骨された。 日本に分骨の申出があったので、時の日本仏教会会長、 慈恩寺に塔を建立し、 水野梅暁師は、 重光大使を通じて国民政 この三蔵塔が日本に

私 は水野梅暁師の遺志を尊重し鳥居観音境内に玄奘三蔵塔と支那門を建立した。

て無事目的を果し今度は太宗皇帝から大歓迎を受け帰国しました。 玄奘三蔵法師は印度から優れた経典を得る為、国禁をおかして出国し、 十七年の歳月を費し

玄奘三蔵法師によって大般若経六百巻を始め多数の経典をもたらし、 影響を及ぼした、 同時に印度の文化や経過した土地国々の風俗習慣、 中国史上最大の 形勢、 里程なども 仏教の

十分研究し、その旅行記録は人類文化に大きな貢献をして居ります。

ま た語学の天才でもありました。 釈尊に次ぐ仏教の偉人と言っても差支えない方でありま

す。

て由 湾日月潭玄奘寺其他に奉安供養されて居ります。 その霊骨は戦 来が明ら か であります。 乱によって、 尚分骨された霊骨は岩槻市の慈恩寺、 六回も改葬され、南京での発掘に際して石に刻まれた文字によっ 弘前市、 鳥居観音並びに台

余名の署名と二千余名の賛助者皆様の協力で、昭和三十五年、 あ れ 元総理大臣吉田茂氏、 は鳥居観音にもう一つ大きな魂を注いだもので、 岸総理大臣、 万田大蔵大臣、 ひいて日中の親善にも寄与するもので 山際日銀総裁等、 白雲山に建立する事が出来まし 政界財界人三百

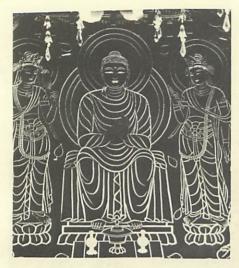
た。



玄奘三蔵塔、鉄筋コンクリート造総高33m (地下1階, 地上4階, 延べ142㎡) 昭和34年落慶, 出隅付四角形壇上に八角形の柱を建て, 方形屋根, 中2階中央に三蔵法師の霊骨を納めてある。3階は八角形の塔身と屋根で仏舎利小塔があり, 4階は円形塔身に16角形屋根を架し鋼板瓦棒葺仕上げ頂上に水煙付金色九輪をのせた独創的な避雷針である。



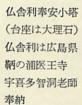
— 196 —

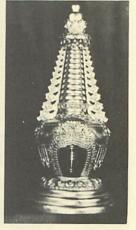


三蔵法師の西遊記を児玉 希望画伯の壁画によって 各階四囲の壁面をかざる



玄奘三蔵霊骨を納める外壺





三蔵法師霊骨壺 奉持の平沼弥太郎, 外壺奉 持の とみ



引続きこの玄奘三蔵塔にふさわしい門を造りたいと念願して、 東南亜、 台湾等の視察後研究

を重ね、漸く構想がまとまりました。

で製作しましたので取付ける迄、 昭 和四十一年末着工、 総高十一米、 調子が合うか心配でしたが何とか納まった様です。 棟の竜と、欄干の鬼、 軒先の鳳凰等、江古田のア 1 リエ

柱 のコマ犬のレリーフはタイ国の古都、 チェンマイのお寺にあったものを参考にし、 門の引

立役になった様に思われます。

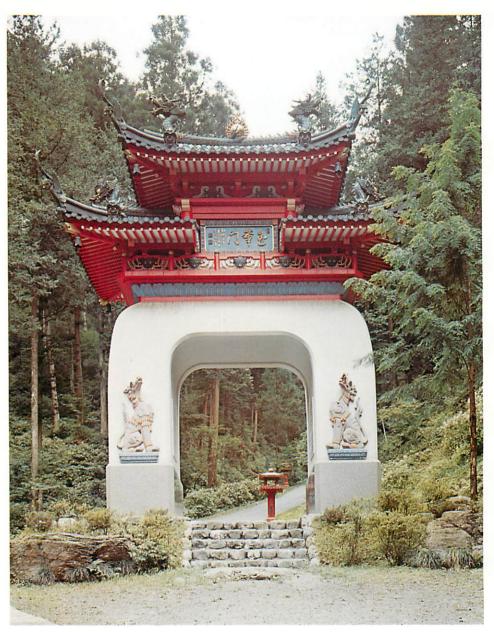
か た。 に式典を終りました。周囲に植え込んだ沢山の椿が大きくなれば、 昭 和 四十四年四月十七日、 気象台始まって以来の珍らしい春の大雪の中に竜宮城の様に美しい 白雲山鳥居観音、 春の例大祭日を卜して、落慶式を執行い この門と融合して一段と 朱が映えて、 おごそ たしま

風

致をそえる事と楽しみです。



棟にとりつける竜 江古田アトリエにて



玉華門 鉄筋コンクリート造総高 11m 昭和44年落慶,村童達は竜宮の門と言って親しんでいる。



高階瓏仙猊下御染筆の額 (平沼とみ篆刻)

九十三才を以って御遷化された事は、

誠に仏教界

た高階瓏仙猊下には、

昭和四十三年一

月十九日、

仏教界の最高峰であり、

曹洞宗の管長であられ

のため大きな損失でありました。

た。 始め、 猊下と鳥居観音との御縁は、 各観音の開眼式や、 実に長年にわたり色々と御指導に預りまし 又その落慶式 甚だ深いものがあ の御導

師 を

支那門は猊下が玉華門と命名されて、

その扁額

玉華門と高階瓏仙猊下

字を御染筆下さいましたのは、 みにして居られたのにと心残りが致します。 昭和四十二年十二月末で、この額が出来上ったら見たいと楽し

この玉華門の字は、猊下の御絶筆となりました。

合 掌

侍者もなく 終の御旅

寒からむ

平沼とみ

救 世 大 観 音

を奪 私 は昭和四十三年、 われました。 中近東附近の古跡を巡拝して廻りましたが、 その雄大さ、 豪華さは全く

心

アフガニ

ス

タン北辺の大雪山山脈にかこまれた三千米近い高原に、

雪や氷河におおわれたヒンズークシ

山脈

群の遺跡があります。

御座います。 て威圧致します。 た跡はあるが、 高さ五十三米の大石仏は回教徒に破壊され 堂 思わず合掌礼拝したことで 々たる彫刻で、 見る者をし

有名なバーミヤンの石窟



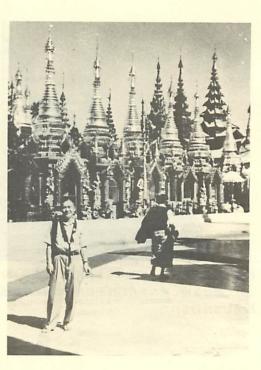


五十三米のハーミヤンの大石仏の頭上より大雪山を望む。回教の劔も及ばなかったのか美しい色彩の壁面など 鮮かに残って居り壮厳な当時をしのぶことが出来る

大石仏の頭上 に登る石崖道 は空気も稀薄 で休み休み登 った。



ハツダの遺跡



ダゴンパゴダ

引きとるを無上の幸とし、

有

難

り、死が近づくと、はるかに聳

えた

奉納する事を一生の願望として居

10

ダに張りつける金箔を買って、

又ビルマ人は収入のほとんどを

つ金色のパゴダを礼拝し乍ら

息を

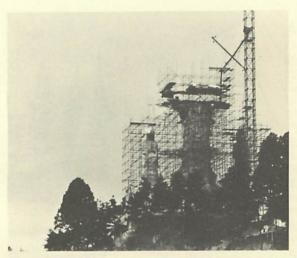
ことと確く信じて居ります。

13 ゴ E" ル ダに心を引きつけられます。 マ人ならずともあの崇高

ts

その他沢山の特色ある建築には威圧されましたが、これは人間のもつ本能とも云えましょう。

為に、 私は、 思想は混乱し、 この旅行によって、 物質文明の虜となって、 大観音建立の悲願をたてました。 祖先が築き上げたよい伝統と信仰心を失われつ もう一つの 理 由 山は日本 年は敗戦の 0



ずのうちに信仰心が呼び

起される縁とも

なれ

ば有難

いことと存じます。

つある現況に鑑み、

大観

音の偉

大なる妙智力により、

高所

より大衆をみそなわ

れ

衆生を済度

7

幸福に導き、

日

本の

平和

を守っ

て頂

3

風光明

媚

な白雲山

の景色を探勝

知らず知ら

建築中の教世大観音,昭和45年2月頭部,胴脚部と分けて製作された像は基壇に積み重ねられ耐風耐震に対し建築技術の粋を 結集して施行された。

れた。 昭和45年9月 工事現場にのぼる平沼弥太郎 -205 -

負の三信工業の大きなアトリエでその原型を六倍に引延す為、三米単位で区切って、粘土づけ の様な形になるか、 をするのですが、距離を置いてみる事が出来ず、 大栄建築の今津技師に設計を依頼し、先ず江古田のアトリエで、六分の一の模型を作り、請 心もとない作業でした。 白雲山頂に建った時、 まわりの山と堂宇とど

の末、 して開眼、 東京で作ったメス型を現地で積み上げて、 漸く出来上って、 落慶式を行いました。 昭和四十六年十一月十一日、 七 メントをつめ、外がわを取りはずすと云う苦心 曹洞宗管長岩本勝俊猊下に御導師 を御

の屋上に二十四米の大観音をお乗せするので台風、耐震に非常な苦心をされました。 も危険で、 白雲山、 思う様に仕事も出来ず、請負者は非常に苦心をされました。 右手の高さ五百米の山の頂きに建立致しましたので、風の強い日や、 何しろ高さ十米の堂字 寒中等は 工事

この設計 は インドと中近東の建築様式と、 日本寺院の様式とを融合させる様試みました。

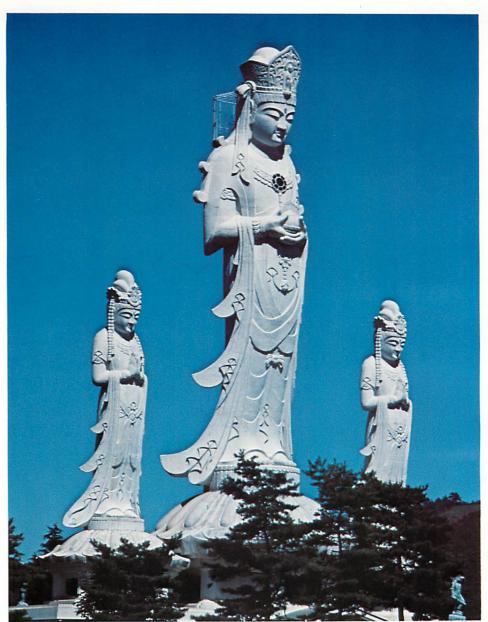
じり柱 ほ 獅子が柱をとりまいて警護して居ります。 玄関 りしたもので二、五米あり、 はギ は、 IJ ク シ ヤ式、 B 島 0 7 ス テン 1 ッ ۴ ク ス宮殿 セイ グラスを生かす為に、 P ン島仏歯寺の入口にあったものを、 の逆柱を参考にしたもので、 入口の ムー ン その屋根を低くしたり、 ス 1 1 ンは御影一 その根元には阿 まねたのです。 枚石 にに唐 正面 草模様 吽 0 赤色の 0 六 を薄 頭 ね 0

は 観音の御脇立の梵天、 入口アーチの双竜、 天上の天女、 帝釈天のレ 花草は中近東附近の図案等をとり入れました。 リー フが配されています。 この入口に

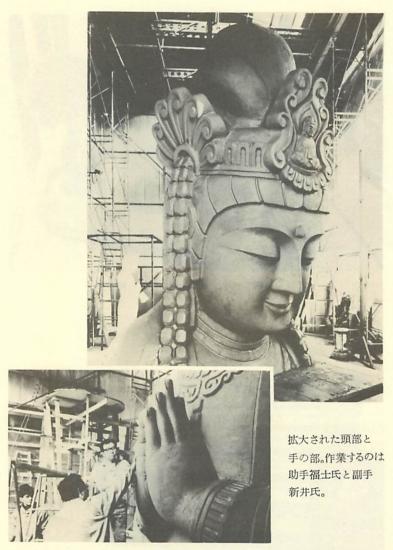
叉、 入口 大原 はステンレ ス製で、 外面は三鈷杵を十字に組んだ羯磨金剛をあしらっ た金箔押

えの中心飾が輝きます。

堂宇外壁には、 沢田政広先生作の観音三十三応身のレ リー フを取り附け、 その屋上には二、



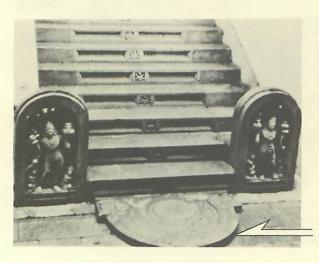
名栗は霧の多い所である。山は高く且つ雄大で眺望もすばらしい。この渓谷の村に入ると突如として、山上に白亜の大観音が姿をあらわす、おやと思う。武甲山を始め、たたなわる山なみを背景にして、そそり立つ大観音の英姿は颯爽として人の心を清澄ならしめる。高さ33mであるが気焰万丈、作者の抱懐の尋常でないのを思はせる。



江古田のアトリエでは大観音の模型 (4m)を造り、それを6倍に引きのばして 区切って粘土つけする作業が一年を要して進められた。巨大なものを粘土で星取 り拡大するのは我が国で初めてのことで、彫刻界でも話題となった。



イラン首都テヘランの博物館内三頭の獅子像



セイロン島 スリランカ 仏歯寺入口の ムーンストン

五米の四天王が四方を守護されております。

正面玄関両脇には、仁王尊を安置、全体の融合を計りました。

堂宇中央から、大観音の見晴台迄のまわり階段も、 奥正面の阿弥陀如来を、おがむのに邪魔

だと思いましたが、やむを得ないことです。時代感覚を出すようつとめました。

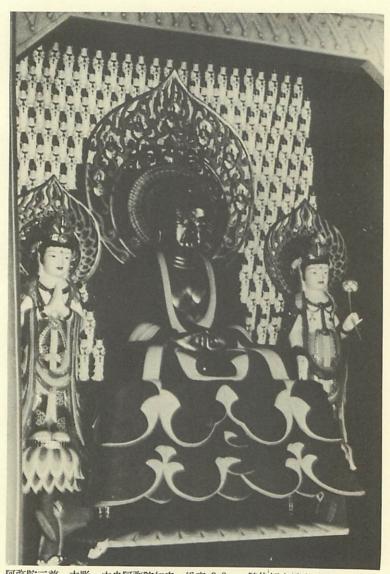
不動明王と、吉祥天の天蓋(二、六米)は内側に鏡を張り、 イランで買い求めた美しい灯籠

を吊す等奇抜なものです。

のご先祖様のご霊位を記載し、一段と堂内に光彩を放ち、崇高にして充実感に溢れて居り有縁 堂宇壁面に奉安しました一万体観音は、各方面の非常なご支援のおかげを以ちまして、 皆様

の方々の巾広い霊場となりました。

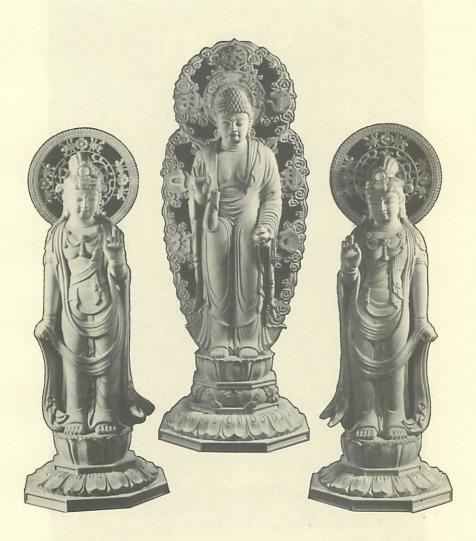
— 210 —



阿弥陀三尊,木彫 中央阿弥陀如来,総高 3.2m 脇侍観音総高 2.3m 勢至 菩薩 総高 2.3m 昭和46年作



吉祥天 木彫 総高3 m 昭和44年作 救世大観音堂字の中にあり、天蓋は不動明王のと同じ 鏡張りとし、中央にイランで買求めた真鍮の灯篭を吊す。



日光菩薩 木彫 総高 1.5m 昭和49年作 薬師如来木彫 総高 2.5m 昭和49年作 月光菩薩 木彫 総高 1.5m 昭和49年作 日光,月光菩薩共に薬師如来の御脇立, 薬師如来光背に金箔の梵字が配されている。



招杜羅大将(丑像) 総高 1.06m



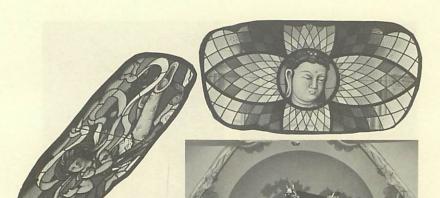
波夷羅大将(辰像) 総高 0.94m



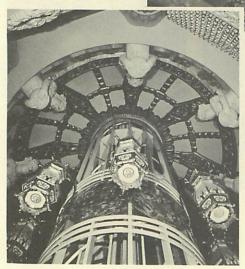


額儞羅大将(未像) 総高 1.00m 宮毘羅大将(玄像) 総高 0.84m

十二神将, 木彫 総高 各1 m 前後, 昭和49年作, 頭上にそれぞれ 子丑寅卯辰巳 午未申酉戌亥の十二支を配す。

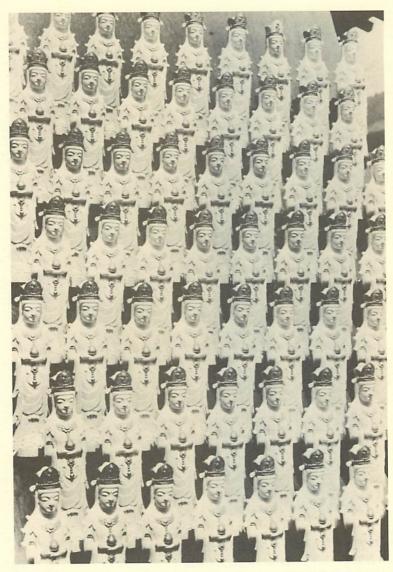


ステンドグラス, 中央ドーム (2.4×1.3m) 両側ドーム (1.2×0.9m) 堂宇内 2階の 窓にあり, 中央に 3 枚両側に 各 3 枚づつある 昭和46年作



救世大観音堂宇内, 中央大ドーム,中央に金箔 大法輪,周囲に梵字24字を 配す。中央柱八本の上部に 散華の花篭を持つ天女像 (八体)他に八個の大灯篭 がある。

天蓋,直径 2.6m天蓋の形は八角で八個の象の彫刻の鼻から瓔珞 (2.2m) が吊してある。これは堂宇にマッチさせる為,独創的なものとなっている



一万体観音は有縁の方々の御先祖様を永代供養のため奉納されたものです。

外陀変もな

聯一対(救世大観音),導師岩本勝俊猊下の御染筆,平沼とみ謹刻,中央正面の両柱 にかける。2.75×0.35m 昭和46年作。

重 ね 不 まして 肖私は、 く事が出来る様 竜門社より八十 この落慶式前 K なりました。 才 に、 0 工 "寿杖"を頂戴しましたので、愈 ン 7 様 0 お 迎えがある事と内心思って居りました処、 々 " 翁" と云う字を 憚 「る事 馬 齢 ts を

納経

社 塔

昭和四十八年十一月一日、 納経塔の落慶並びに納経式を挙行しました。

ガ 1 ダ ーラ遺跡から発掘されたものを参考にし、三蔵塔と大観音の中間の面白岩に建立した

内部は獅子を台座として、金箔の釈迦如来の木彫を安置してあります。

\$

ので、

総高十五米です。

多数の写経が収められて居ります。願主皆様の心がこめられたものであります。 万緑の中に真白くそびえるこの塔の中には、一万体観音のための一万巻の般若心経を始め、



納経塔,鉄筋コンクリート造り 総高 15m 昭和48年10月落慶 般若心経一万巻其他奉納



釈迦如来(印度式) 木彫金箔仕上げ 総高 2.5m, 昭和48年作, 納経塔内部の高さ4m の正面壇上に, 二頭獅子台座上に奉安す



昭和47年10月 江古田アトリエにて

開山三十五周年と地球愛護平和観音

が 観音信仰を通じて、年と共に大きく拡がって来たことも事実です。 昭 和 五十年は、当山が開山して、三十五周年を迎えることになりました。 私の小さかった夢

り、 篤信の多くの方が 又着工されていて年々整備されていくのには驚きます』と云われます。 『鳥居観音に一、二年来ないでいると、もう新しいものが建てられていた

私の夢は、 まだまだ拡がっていきますが、昭和五十年は地球愛護平和観音が完成落慶を見ま

した。

五米あります。背に鳩の羽を模し、両の手で霊水の入った壺を傾け、 観音様は、見晴台の処に建立し、高さ十五米、 地球儀の直径五、五米、 地球に注いで、 観音様 の高さ三、 地球上の

あらゆるものを浄化し、 慈悲をもって人類の平和を図る発想で、 昭和四十九年春着工したもの

です。

もみにもまれています。それが刻一刻と急変するので、不安がつのるばかりで、 今世界はどこの国も激変する渦の中に右往左往してあえいでいます。我が国もその渦中に大 心の安らぎが

この事は人間生活に欠くことの出来ない大切な事と存じます。

欲しいのです。

願

悲

文

地球上の人類は天地と共に一体となって生活の発展をなしてきた。

川草木、ことごとく汚染、 近時科学文明の急速な進歩、革新により、天地自然を征服する思想が芽生え、天も地も、山 破壊を見るに至った。

に、推移するならば、地球はやがてくつがえされ、人類の絶滅は必然であろう。 これは神仏を恐れない行為であり、洪大な天地の恩恵を無視するものと云うべく、 このまま

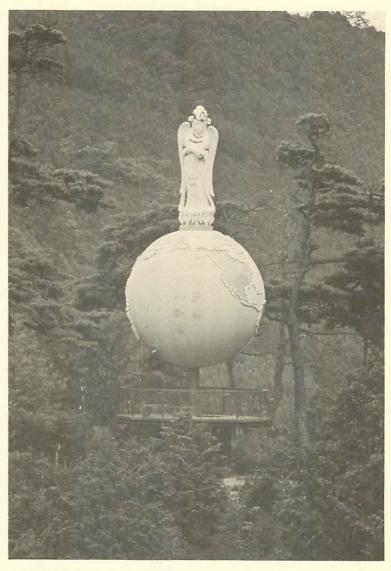
念するものである。 私は、この現状に鑑み地球愛護平和観音を建立し、天地自然と共に、人類の永久的繁栄を祈

何卒この悲願をご加護あらんことを。

昭和五十年四月十五日

平沼 桐江

とみ



地球愛護平和観音, 翼を背に直径5mの地球儀を台座に, 見晴台上に建つ

大鐘楼、三十三観

昭和五十二年五月の佳き日を迎え、大鐘楼の落慶、

撞初め式を挙行いたしました。

この設計はかつてバリ島で見た椰子の葉で葺いた鐘楼の絶妙な形に深く感動しましたので、

その形状をとり入れました。

多くの有志各位のご協賛ご支援を得て、 参道中腹に落慶しました。

最後の悲願として、 ブロンズ製の三十三観音を作り、 救世観音堂宇内に奉安しました。

春の花、 秋の紅葉、 山なみにこだまして殷々と響く鐘声に心身共に洗われる心地がいたしま



白雲山 鳥居観音大梵鐘(口径 1.2m 高さ1.7m)。 鐘楼, 五角形五本柱 総高11m 昭和52年 5 月落慶

昭和五十五年の新年を迎えて

御 お 加護のお蔭と、 蔭をもちまして、私は八十八才の新年を迎えることが出来ました。これも只々観世音菩薩 毎日遥か白雲山の方向にむかい合掌致します。

0

そして折 々の参拝は私の最高のよろこびであり一巡のあとは心身共に爽やかで崇高な気分が

油然と湧いてまいります。

つの建造物の建築途上であれこれと骨折ったことが、頭の中を去来し、 石上に腰をおろして、じっとして居りますと、過ぎし遠い日が思い出されてきたり、一つ一 それも皆美しいものに

思えます。 鳥居観音四十年の歴史というものは、何とも言いようのない、

眼に見えない糸に引かれて、

て か L く順 よ 自 みじみ考えてまいります。 分 い 調 の考え、 カン わ に運んできたのである。 か 5 自分の力だけでは、 な い \$ の、 そういう大きな力が加わって成就したのだ。 神仏の加護とか、 どうにもならないもの、 祖先の遺徳とか云らより外に、 挫折や苦心があったにせよ、 自分の力だけでないと、 何と表現し とに

Щ ありますが、宝筺印塔を建てたいと念願して居ります。 鳥居観音は大凡完成致しました。もし、尚、許されるならば、 報恩とか、 感謝という言葉の重味が今まで以上に強く感じられてくるわけであります。 それは神仏の思召によるもの 白雲

世 ます。二三百枚たまると松田江畔先生に見て頂いておりますが、半分は落第でなかなか出来ま て悠々自適の余生を送っております。只、達磨大師の画は五千枚を目標に楽しんで書 ん。 去る四十九年九月に脳溢血になり二カ年病院にて治療を受け其後は全ての公職も彫刻もやめ いて居り

謹んで、 感謝の誠を捧げ、 四海安穏を念ずる次第でございます。

三十三観音



持経観音



龍頭観音



陽柳観音



白衣観音



遊戲観音



円光観音



魚藍観音



施楽観音



蓮臥観音



青頸観音



一葉観音



水月観音



岩戸観音



延命観音



威徳観音



蛤蜊観音



瑠璃観音



阿来辱観音

本籍 地

現住所

東京都練馬区小竹町一丁目五二番地

平岩

沼菜

彌

太力

郎品

県入間郡名栗村大字上名栗三、一九三番地

歴 埼玉

昭和二十九年 昭昭 昭大和和 和正 十十七五 年年 年年 年年 八五 四五 三一 月月 月月 月月

山

林関係

昭大 和正 昭大和正 ++ 五一 年年 三五. 月月

名栗水電

年年 六七 月月

飯能

銀行

昭和七年二月 取締役会長株式会社飯能銀行、取締役

名栗水電株式会社、 取締役社長

埼玉県森林組合連合会、 埼玉県地方森林会、 埼玉県山林会、 副会長 議員

理事

明治二十五年六月十二日生

昭和十七年五 月 副会長

昭 和二十三年四月 会長

埼玉県木材株式会社、 取締役社長

昭和二十二年十二月昭和十八年十二月月

埼

玉県地方木材株式会社、

顧問

埼玉県林業会、 会長

日 本林業会、 理 事

日 本林業協会、 理事

昭和二

一十四年

月

昭和二十四年十一四年十二年四

月月 月月

昭和二十四年十一四年十二年四

埼 玉 土緑化推進委員会、 玉県郷土緑化推進委員会、委員長 監查委員、

大日 本山 林会、 理事

昭和三十七年

四

月

昭和二十五年

七

月

昭和二十五年

月

昭和二十五年

月

第十 皇后 御手播の御介添 一両陛 回 国土緑化全国 下御手播苗植 奉仕 植樹大会、 樹行事の時、 寄居にて天皇、 天皇陛下の

理事

係

名栗村

長

昭昭和和 昭昭 昭昭 和和 二十八二八

和和 二十八二年年 年年 年年 四四 四二 十三 月月 月月 月月

参議 院議

昭 員

埼 玉 一県議 会議 員

和二十六年十二月

参議 臨院大蔵 常任委員長

埼 玉 銀 行 他 昭昭和和

二十八年

月月

昭株

和式

四年埼

四玉

月銀

海役頭

取

取

行、

昭昭和和 昭昭 昭昭 和和 和和 三十六年 丰 弄 六四年年 六四年年 十四 十四 月月 月月 月月

東京

銀行協会、

理

事

埼

玉

県

銀

行協

会、

会長

昭埼

和玉

小三十三年四日 工県信用保証は 1

月協

会長理事

会、

昭昭 昭昭 和和 和和 三十六年十 干干 - 五年十二 月月 月月

全国

理事

昭昭和和

三十六年十

月月

経 全国 団体連合会、 地 銀行協会連合会、 方 銀行 協会、 評議 理

事

員

伊勢神宮 他

昭和四十八年 昭和二十四日 年年 十 月月

昭昭和和 二十八年 月月

昭和三十六年十一昭和二十八年 四 月月

昭和三十六年十一 月月

昭和三十四年 六六 月月

埼

玉県

商

工会議所連合会、

会頭

昭和三十六年十二月

昭和三十六年十二月

昭和三十六年十二月 昭和三十六年十二月

昭和三十六年十二月 昭和三十六年十二月

昭和三十六年十二月

埼 玉県経 営者 協会、 会長

日 日 本 本火災海 経 営者 団 上保険株式会社、 一体連盟、 常任 理 取締役 事

株式会社埼 玉銀行、 相談役

日本火災海上保険株式会社、 相談役

武州 大栄不動産株式会社、 商事株式会社、 相談役 相談役

富 土 倉庫運輸株式会社、 相談役

不二サ " シ株式会社、 相談役

蛇 ノ目ミ 2 ン工業株式会社、 相談役

埼 第 玉県 五. + 八武蔵 九回伊勢神宮遷宮奉讃会、 ノ宮氷川神社奉讃会、 埼玉県本部長 会長

昭和二十一年 一 月

昭和二十一年 三 月

造林事業功労者として埼玉県知事より表彰を受

紺綬褒賞を受く

<

飾版一個を受く

藍綬褒賞を受く

林業功労者として大日本山林会より表彰を受く

勲三等旭日中綬章を受く

昭和四十一年

五月

昭和三十二年 五 月

昭和三十年十一月

昭和三十年七月

以 上

-235-



如意輪観音(平沼桐江作) 昭和27年埼玉銀行カレ ンダーに使用した小品, 高さ15cm。

世 銀行頭取としての激務、参議院議員大蔵委員長外数々の公職の中を、 帰宅後ノミを取り、

無心に彫刻、御多忙の日常でありました。

『平沼頭取が推進される処、 手が出ない』金融界、産業界の声でありました。武鉄事件によって

職を辞され、 平沼先生はもくもくと御令室様と中近東へ、東南アジアへ、ヨーロッパへ仏蹟を尋ね、その会得 無罪の公判の後、早々勲三等の叙勲に輝いた時、 私達行員は大いに喜び合いました。

を熾烈にノミへ、白雲山はつぎつぎと建立を増して参りました。

五百米の山頂に、三十三米の救世大観音を建立され、その悲願は先生の御身体を倒しました。

熱川でリハビリテーション、日課に川原へ御散歩、先生につきそわれる御令室様、こけつまろび

つの御姿を三百米の距離から拝見した時、思わずその後姿に合掌しました。この夫婦愛は先生を回

復させ、三十三観音、大鐘楼建立となり白雲山の山川草木に一段と風物を添えて居ります。 偉大なるかな平沼先生御夫婦、この貴重な先生の八十八星霜を誤って清書したり、誤字誤植等浅

学凡才の編集者の一切の責任であり此処に明記して御詫びを申上げます。

益々の御健勝御隆昌を御祈り申上げ祈念申上ぐる次第でございます。 米寿の御慶事を迎えられた平沼先生、御令室様には、この世相に一段の浄化を加えられます様、

編集者 石田宗国

桐江米寿までの歩み

昭和55年5月1日印刷 昭和55年5月5日発行 (非売品)

著述·発行 平 沼 彌太郎 東京都練馬区小竹町1-52

編 集 石 田 宗 国 東京都杉並区高井戸西 2-13-4

印刷・製本 武州印刷株式会社 浦和市仲町2丁目8番15号 TEL (0488) 31—5382代